令和３年度 泉南市教育委員会
点検・評価報告書
（令和２年度対象）

令和３年 11月

泉南市教育委員会

― 目　次 ―

Ⅰ．はじめに.....1
Ⅱ．泉南市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検・評価の実施方針
について.....2
・令和２年度の泉南市教育委員会の施策体系.....3
・令和２年度点検・評価の重点項目.....4～5
Ⅲ．泉南市教育委員会について
（１）教育委員会の構成.....6
（２）教育委員会会議の開催状況.....6～10
（３）教育委員会会議以外の活動状況.....11～12
Ⅳ．評価調書（令和２年度対象）.....13
・評価調書（点検・評価の重点項目１～22）.....14～57
・泉南市教育委員会令和２年度コロナウイルス感染症対策事業のまとめ...58～61
Ⅴ．泉南市教育委員会評価委員会による意見
・令和２年度における泉南市教育委員会事務等の点検・評価について（意見書）
.....62～65
Ⅵ．泉南市教育委員会による令和２年度事業等の点検・評価（総括）.....66
Ⅶ．泉南市教育委員会評価委員会規則及び評価委員名簿
・泉南市教育委員会評価委員会規則.....67
・令和３年度泉南市教育委員会評価委員名簿.....68

―別添関連資料―

・泉南市教育委員会評価委員会評価調書参考資料（令和２年度対象）
・泉南市教育大綱（第２次）
・泉南市教育振興基本計画
・令和２年度泉南市教育重点施策（SEPP2020）
・令和３年度泉南市教育重点施策（SEPP2021）
・泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞

Ⅰ．　はじめに

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定により、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

この報告書は、泉南市教育委員会が令和２年度に実施した泉南市教育委員会の所管事務及び事業の具体的施策の中から重点項目として抽出した 22 事業を対象として、泉南市教育委員会評価委員会の意見を付記しつつ、その点検と評価を行ったものです。

Ⅱ．泉南市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検・評価の実施方針について

１．趣旨

泉南市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、毎年、事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより、効果的な教育行政の推進と住民への説明責任を果たすものである。

２．実施方針

⑴点検及び評価は、教育委員会会議等の活動状況をまとめるとともに、前年度に実施した所管事務及び事業の具体的施策の中から重点項目として抽出した事業を対象とし、その進捗状況の総括、取組の効果や今後の課題について考察するものとし、毎年１回実施する。

⑵点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る必要があるため、泉南市教育委員会評価委員会を設置する。

⑶委員は学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱し、その職務が終了したときは、解任されるものとする。

⑷教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を泉南市議会に提出し、その後公表する。

令和２年度の泉南市教育委員会の施策体系（泉南市教育振興基本計画より転載）

目指す子ども像

希望と力をもちたくましく生き抜く子ども

基本理念

皆で育む「大いなる希望」―つながりを力にして―

（施策項目）

基本方針１
就学前保育教育の充実

①人権保育教育の推進
②保育教育環境の整備
③子育て・子育ち支援の充実・強化
④共に生き共に育つ保育の充実
⑤国際交流の推進

→ 具体的施策

基本方針２
小・中学校の教育力の充実

①基礎学力の向上
②豊かな人間性と社会性の育成
③障害のある子どもの自立支援
④国際化教育の推進
⑤食育の推進
⑥小中一貫教育による学習の充実

→ 具体的施策

基本方針３
明るく安心できる学習環境の整備、充実

①教職員の資質能力の向上
②学校組織力の向上・学校安全の推進
③学校と教育委員会のコミュニケーション強化
④市長や教育長に具体的な声を反映できる仕組み
⑤調整区の解消

→ 具体的施策

基本方針４
安全・安心な教育環境の整備

①安全・安心かつ多様な教育等に対応した学校施設
②地域・保護者との連携による開かれた学校づくり
③通学時の安全確保
④学校内外の防犯対策

→ 具体的施策

基本方針５
生涯学習の推進

①人権尊重のまちづくり
②社会教育の充実
③青少年の健全育成の充実
④家庭教育充実の支援
⑤子どもの居場所づくりの推進

→ 具体的施策

基本方針６
市を挙げての教育施策の推進体制の確立

①子どもの権利に関する条例の推進
②市の一般施策との連携強化
③保護者の経済的負担の軽減
④地方創生関連事業の推進と連携
⑤予算への効果的な反映
⑥総合教育会議の機動的かつ適切な運営

→ 具体的施策

令和２年度泉南市教育重点施策（SEPP２０２０）

令和２年度点検・評価の重点項目

１　就学前保育教育の充実
保育教育環境の整備（１－②）教育総務課・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

２　就学前保育教育の充実
子育て・子育ち支援の充実・強化（１－③）指導課・・・・・・・・・・・・16

３　小・中学校の教育力の充実
基礎学力の向上（２－①）指導課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

４　小・中学校の教育力の充実
豊かな人間性と社会性の育成（２－②）指導課・・・・・・・・・・・・・・20

５　小・中学校の教育力の充実
国際化教育の推進（２－④）人権国際教育課・・・・・・・・・・・・・・・22

６　小・中学校の教育力の充実
食育の推進（２－⑤）教育総務課（学校給食センター）・・・・・・・・・・24

７　小・中学校の教育力の充実
小中一貫教育による学習の充実（２－⑥）人権国際教育課・・・・・・・・26

８　明るく安心できる学習環境の整備・充実
教職員の資質能力の向上（３－①）指導課・・・・・・・・・・・・・・・・・28

９　明るく安心できる学習環境の整備・充実
市長や教育長に具体的な声を反映できる仕組み（３－④）教育総務課・・・30

10　安全・安心な教育環境の整備
安全・安心かつ多様な教育等に対応した学校施設（４－①）教育総務課・・32

11　安全・安心な教育環境の整備
通学時の安全確保（４－③）指導課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

12　生涯学習の推進
社会教育の充実（５－②）生涯学習課（埋蔵文化財センター）・・・・・・36

13　生涯学習の推進
社会教育の充実（５－②）生涯学習課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

14　生涯学習の推進
社会教育の充実（５－②）文化振興課（図書館）・・・・・・・・・・・・・・40

15　生涯学習の推進
社会教育の充実（５－②）文化振興課（図書館）・・・・・・・・・・・・・・42

16　生涯学習の推進
社会教育の充実（５－②）文化振興課（公民館）・・・・・・・・・・・・・・44

17　生涯学習の推進
社会教育の充実（５－②）文化振興課（図書館）・・・・・・・・・・・・・・46

18　生涯学習の推進
青少年の健全育成の充実（５－③）生涯学習課（青少年センター）・・・・48

19　生涯学習の推進
子どもの居場所づくりの推進（５－⑤）生涯学習課（青少年センター）・・50

20　生涯学習の推進
子どもの居場所づくりの推進（５－⑤）生涯学習課・・・・・・・・・・・・52

21　市を挙げての教育施策の推進体制の確立
子どもの権利に関する条例の推進（６－①）人権国際教育課・・・・・・・54

22　市を挙げての教育施策の推進体制の確立
保護者の経済的負担の軽減（６－③）指導課・・・・・・・・・・・・・・・56

Ⅲ．泉南市教育委員会について

（１）教育委員会の構成

職　　名	氏　　名	任　　期
教育長	古川　聖登	平成31年４月１日から令和４年３月31日まで
委員(教育長職務代理)	片木　哲男	平成31年３月14日から令和５年３月13日まで
委員	薮内　　進	令和元年12月25日から令和５年12月24日まで
委員	柳澤　泰志	平成30年６月30日から令和４年６月29日まで
委員	太田　淳子	令和３年４月１日から令和７年３月31日まで

（２）教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、毎月１回、定例会を開催し議案・報告案件の審議を行っている。令和２年度は 12 回の定例会と２回の臨時会を開催した。

①令和２年度　教育委員会会議審議案件

件　　名	審議日
① 泉南市立青少年センター運営委員会委員の委嘱について ② 泉南市立義務教育諸学校教科用図書選定委員の任命について	4 月 23 日
① 泉南市就学支援委員会規則の一部を改正する規則の制定について ② 泉南市就学支援委員会委員の委嘱について ③ 泉南市立学校の府費負担教職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則の一部を改正する規則の制定について ④ 令和２年度大阪府泉南市一般会計予算（当初予算案からの増減案）（教育委員会所管分）について	5 月 21 日
① 泉南市社会教育委員の委嘱について ② 泉南市青少年問題協議会委員の委嘱について ③ 泉南市教育委員会会議規則の一部を改正する規則の制定について ④ 泉南市立学校管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について	6 月 24 日

件　　名	審議日
①　泉南市教育委員会評価委員会委員の委嘱について ②　泉南市立図書館協議会委員の任命について ③　泉南市立学校の府費負担教職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について	7 月 28 日
① 令和３年度使用教科書の採択について ② 泉南市教育委員会会議規則の一部を改正する規則の制定について ③ 泉南市教育委員会傍聴人規則の制定について	8 月 3 日
①　動産の買入れについて ②　令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第５号）（教育委員会所管分）について	8 月 25 日
① 泉南市立学校管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について	9 月 24 日
① 招致外国青年の任用、報酬、費用弁償等に関する規則の一部を改正する規則の制定について ② 泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞（案）について	10 月 26 日
① 泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞について	11 月 9 日
①　泉南市公民館運営審議会委員の委嘱について ②　令和元年度泉南市教育員会点検・評価報告書について ③　令和３年度泉南市立小・中学校教職員人事基本方針について ④　泉南市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について ⑤　令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第７号）（教育委員会所管分）について ⑥　泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞について	11 月 17 日

件　　名	審議日
①　泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞について	12 月 14 日
① 令和３年度大阪府泉南市一般会計予算（教育委員会所管分）について	1 月 19 日
①　成年年齢の引下げに伴う泉南市成人記念祭の在り方について ②　令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第 10 号）（教育委員会所管分）について ③　令和３年度泉南市教職員人事について	2 月 8 日
① 泉南市教育委員会事務分掌規則の一部を改正する規則の制定について ② 招致外国青年の任用、報酬、費用弁償等に関する規則の一部を改正する規則の制定について ③ 令和３年度泉南市教育重点施策 SEPP2021 について ④ 泉南市教育委員会事務局職員の処分について	3 月 22 日

②令和２年度教育委員会会議報告事項

件　　名	報告日
① 令和２年度泉南市教育委員会事務局の体制について ② 新型コロナウイルス対応について	4 月 23 日
① 新型コロナウイルスの対応について ② GIGA スクール構想への対応について ③ 泉南市小・中学校問題行動（平成 31 年４月１日～令和２年３月 31 日）について ④ 泉南市子どもの権利条例委員会委員について ⑤ 令和２年度大阪府泉南市一般会計暫定予算に係る補正予算（教育委員会所管分）について	5 月 21 日
① 新型コロナウイルス感染症対策の対応について ② 令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第１号）（教育委員会所管分）について	6 月 24 日

件　　名	報告日
① 泉南市学校給食費無償化支援事業補助金交付要綱の制定について ② 令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第３号）（教育委員会所管分）について	7 月 28 日
① 泉南市 JET サポートボランティア登録及び活動要綱の制定について ② 令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第４号）（教育委員会所管分）について	8 月 25 日
① 令和２年度泉南市立学校における問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について（令和２年４月～令和２年７月） ② 令和３年度大阪府新学力テスト（小学生すくすくテスト）の実施について ③ 2020 年度第２回実用英語技能検定（英検®）準会場受験について ④ 泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞に関する進捗状況について	9 月 24 日
① 泉南市留守家庭児童会実施要綱の一部改正について ② 泉南市修学旅行キャンセル料支援事業費補助金交付要綱の制定について ③ 泉南市外国青年招致事業参加者住宅貸与要綱の制定について	10 月 26 日
① 泉南市立学校情報セキュリティポリシーの制定について ② 泉南市学習用タブレット等貸与要綱の制定について	11 月 17 日
① 泉南市立図書館きらめきサポーター事業実施要綱の制定について ② 泉南市学習用タブレット等貸与要綱の一部改正について ③ 泉南市立学校園における新型コロナウイルス感染症の発生状況について	12 月 14 日

件　　名	報告日
① 泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞住民説明会の実施について ② 泉南市立学校園における新型コロナウイルス感染症の発生状況について ③ 令和２年度泉南市立学校における問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について（令和２年４月～令和２年 12 月） ④ 令和２年度学校水泳授業実施アンケート結果について	1 月 19 日
① 東京 2020 オリンピック聖火リレートーチの市町村巡回展示について ②「SNS ノートおおさか」の活用について	2 月 8 日
① 令和２年度中学生チャレンジテスト結果について ② 泉南市立学校園における食物アレルギー対応ガイドラインについて ③ 教育委員会会議録の情報公開について ④ 令和２年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第 10 号）（教育委員会所管分）について【追加】 ⑤ 令和３年度大阪府泉南市一般会計予算（教育委員会所管分）について【主な事業】 ⑥ 令和３年度大阪府泉南市一般会計補正予算（第１号）（教育委員会所管分）について ⑦ 泉南市立幼稚園開園 10 周年記念イベントについて	3 月 22 日

（３）教育委員会会議以外の活動状況

教育委員会会議以外においても、教育長等が総合教育会議、各種研修会、各種行事等に出席した。令和２年度はコロナ禍により中止やオンラインとなる行事が少なくなかった。

①泉南市総合教育会議

市長及び教育委員会で構成する泉南市総合教育会議に出席し協議した。

会議名	日程	内容
令和２年度第１回 泉南市総合教育会議	令和２年７月 28 日	新型コロナウイルス感染症に対する泉南市の教育に関する取組について

②各種協議会等への出席等

・大阪府都市教育委員会連絡協議会
・大阪府都市教育長協議会定例会
・泉南地区人事協議会
・泉南地区教育長連絡協議会
・大阪府都市教育長協議会研修会
・大阪府都市教育長協議会（SNS ノートについて）
・大阪府都市教育長協議会予算要望説明会
・泉南地区人事協議会
・文科省主催市町村教育委員会研修会（オンライン）

③各種行事等への出席等

・幼小中教頭等辞令交付式
・教職員転任者等辞令交付式
・旧青少年センター除却に伴う関係部署会議
・学校の在り方検討(統合再編計画案)説明会
・官公庁連絡会
・青少年センター運営協議会
・泉南市青少年問題協議会
・社会教育委員会議
・泉州キワニスクラブ贈呈式
・泉南市教育委員会評価委員会
・市長杯サッカー大会開会式U-12
・「青色パトロール車輌」贈呈式
・新家駅前公有財産の再編に係る検討会議
・市長杯サッカー大会開会式U-10
・文科省出向者研修会（オンライン）
・給食センター視察
・正式採用辞令交付式
・図書館協議会
・市総体水泳大会
・SNS ノート会議
・人権啓発講演会
・グラウンドゴルフ大会
・第 36 回りんくうマラソン大会
・ワールドマスターズゲームズ泉南市実行委員会総会
・JET プログラムメンバー辞令交付式
・文科省主催市町村教育委員会研修会（オンライン）
・第６次総合計画推進委員会
・成人記念祭
・ワールドマスターズゲームズプロモーション
・泉南南部公立幼稚園長会
・教職員辞令交付式

Ⅳ. 評　価　調　書

（令和２年度対象）

評価調書（点検・評価の重点項目１～22）

・具体的施策（施策の概要）

・前年度までの主な課題（評価委員からの指摘事項等）

・活動内容

・各種指標値、事業費の推移

・自己評価と取組の主な効果

・泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

・今後の主な取組

点検・評価の重点項目評価調書 1

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　教　育　総　務　課　）

基本方針	1	就学前保育教育の充実
施策項目	②	保育教育環境の整備

（１）具体的施策（施策の概要）

・幼稚園施設の充実と保全維持
　幼稚園運営に支障のないよう、また良好な保育教育環境を提供するため、幼稚園施設の保守点検、施設警備等の委託、その他維持管理及び修繕や必要な改修工事などの保全整備を実施する。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　施設の不具合に対して、子どもの安全を確保できるよう迅速な補修・修繕に努めるとともに、限られた財源の中、施設保全に要する予算の拡充に努めていただきたい。

　幼稚園との情報共有を密にして、施設・備品の適切な維持管理に努めるよう意識の向上を図り、快適な保育教育環境の確保に努めていただきたい。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・電気工作物保安管理、消防設備点検、受水槽清掃、エレベーター点検等の保守点検や施設警備を行った。
・門扉、フェンス、空調、放送設備、遊具など、各幼稚園施設及び設備の修繕を行った。

（１）幼稚園管理事業　15,398千円
　・施設修繕料　662千円
　・委託料　4,600千円

（２）施設保全整備事業　1,758千円
　・施設修繕料　1,276千円
　・委託料　98千円

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	幼稚園施設数	各年度５月１日現在	園	2	2		
対象指標②	園児数	各年度５月１日現在	人	348	338		
対象指標③							
活動指標①	修繕件数		件	20	23		
活動指標②							
活動指標③							
成果指標①	保全執行率	（修繕費決算額÷修繕費予算額）×１００	%	98.54	99.84		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①	幼稚園管理事業		千円	15,199	15,398	17,707	
事務事業費②	幼稚園施設整備費		千円	1,959	1,758	3,036	
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

各幼稚園施設の点検、維持管理、警備を適宜実施し、不具合箇所を迅速に補修・修繕したことにより、保育教育施設の安全性及び快適性を確保することができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

保全執行率は高く、適正な保全に努められていると認められる。

くすのき幼稚園は建築して比較的新しい施設だが、あおぞら幼稚園は経年劣化で大雨の際に雨漏り等の危険性がある。災害があったときに迅速に対応できるような予算の確保や事前の施設整備計画を立てることができれば、より安定的に安全確保できる。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

幼稚園管理事業及び施設整備事業においては、施設の劣化状況を認識し、子どもの安全性及び快適性を確保するため、適切な維持管理と保全に向けて十分な予算確保に努める。

平時から幼稚園と密に連絡を取り合うことによって、できるだけ早期の不具合箇所の把握に努める。

点検・評価の重点項目評価調書 ２

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	1	就学前保育教育の充実
施策項目	③	子育て・子育ち支援の充実・強化

（１）具体的施策（施策の概要）

①未就園の親子を対象にした遊び場の提供と子育て相談の実施
　親子登園（２歳児、３歳児、４歳児の未就園の子どもたち対象）や「ひろば」、「園庭開放」の子育て支援事業については、各幼稚園に子育て支援担当者が配置されていることで、それぞれの園が連携しながら保育内容、ねらいなどのカリキュラムを考え、定期的に開催する。
②保護者のニーズに対応できる預かり保育の実施
③保育教育の質を高める研究活動
　園内研修、２年目研修等の提案保育の中で環境構成、支援が必要な子どもへの援助や学級づくり等に対して、具体的に指導を行う。また、教職員の資質向上のため、より具体的な指導や希望者については個別指導を行う。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　就学前機関と小学校とがしっかり連携されていることは、高く評価する。
　幼児教育の視点で、支援の必要な子ども、保護者の方に、早い段階で支援ができるよう、幼小の連携、小中の連携を図り、今後の教育にも生かせるよう、ますます積極的に取り組んでいただきたい。
　スタートカリキュラムについては、国や大阪府、隣の和歌山県でも作成しているので、他府県のものを参考にしながら、子どもたちの実態や、地域の実態に応じたものを目指していただけたらと思う。

２. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

①未就園児の親子を対象とした遊び場の提供と子育て相談の実施について
　あおぞらひろばは、毎週月曜日に開催、くすのきひろばは毎月２回月曜日に開催した。（いずれも9:30～11:50で、各園区の就園の子どもと保護者が対象）
　＊令和元年度【ひろば】利用者数　あおぞら幼 32日延べ 103人・くすのき幼 13日延べ208人
　＊令和２年度【ひろば】利用者数　あおぞら幼 30日延べ 161人・くすのき幼 10日延べ216人
　園庭開放は、月１～２回程度、未就園児と保護者、在園時と保護者を対象として実施した。
　＊令和元年度【園庭開放】利用者数　あおぞら幼13日延べ14人・くすのき幼12日延べ62人
　＊令和２年度【園庭開放】利用者数　あおぞら幼９日延べ３人・くすのき幼10日延べ38人
　遊び場の提供だけでなく、来園された保護者から子育てについての相談などを受けることが増えてきており、公共施設や就学前施設が担う役割は大きい。
　＊令和元年度【親子登園】利用者数　あおぞら幼10日延べ216人・くすのき幼23日延べ562人
　＊令和２年度【親子登園】利用者数　あおぞら幼30日延べ144人・くすのき幼33日延べ426人

②保護者のニーズに対応できる預かり保育の充実について
　保育終了後や中期休業中など、希望する園児を対象に預かり保育担当職員（会計年度任用職員）が保育を行った。保護者に子育てのゆとりや安心、自己充実の機会を提供し、支援を行っている。また、降園後の居場所を提供したり、地域の遊び仲間や遊び場を補完している。
　＊令和元年度利用者数　あおぞら幼　237日　延べ2676人　・　くすのき幼　238日　延べ4281人
　＊令和２年度利用者数　あおぞら幼　237日　延べ2127人　・　くすのき幼　239日　延べ3050人

③保育教育の質を高める研究活動について
　園内研修、２年目研修等の提案保育の中で環境構成、支援が必要な子どもへの援助や学級づくり等に対して、具体的に指導を行った。また、教職員の資質向上のため研修や個別指導を行った。（研修回数：22回、参加者数延べ43人）
　また、泉南市立幼稚園10周年イベント（令和３年３月１日）を行った。イベントフィナーレのバルーンリリースにより、風船が舞い降りた方々と園児との心温まるふれあいが行われるなど、コロナ禍にあって、おとなも子どもも心が癒される取組となった。テレビやネットでも放送された。**（資料2-1､2-2参照）**

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	泉南市立幼稚園在園児数	各年度5月1日現在	人	348	338		
対象指標②							
対象指標③							
活動指標①	ひろば参加者数	年間のべ参加者数	人	311	377		
活動指標②	親子登園登録者数	年間のべ参加者数	人	1,105	956		
活動指標③	預かり保育利用者数	年間のべ参加者数	人	6,957	5,179		
成果指標①	親子登園参加率	（参加者数÷登録数）×100	%	77.4%	59.6%		
成果指標②	幼稚園に行くことが楽しいと感じている。		%	98.5%	98.3%		
成果指標③	一人ひとりの個性を大切にし意欲や自信を持たせている。		%	98.7%	99.0%		
事務事業費①	学校園管理運営事業		千円	18,876	3,652	22,592	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

大阪府主催の研修のほか、泉南市独自の取組として経験年数の浅い職員を対象に、具体的な保育力向上及び集団作り、教材研究や環境づくりについて指導している。

平成29年３月幼稚園教育要領の改訂に即した令和元年度泉南市立幼稚園教育課程を編成作成し、教育活動の充実を図っている。学期ごとの振り返りとともに自己評価の内容を学年ごとに分析、グラフ化等で見える化し、課題の認識を共有化したうえで、次年度の研究課題・自己研究目標に活かしている。

幼児期の生活から小学校の生活への移行を円滑にすることや、遊びから学びへつながる力、体験を通して総合的に学んでいることやひとりひとりを大切にその子に応じたきめ細やかな指導を行っていること等を交流し、小学校教育への円滑な接続につなげている。

支援が必要な子ども、保護者に早い段階で支援ができるよう、幼小や専門機関との連携、小中の連携を図っている。しかし、両園ともに年々支援が必要な園児が増えている実態があり、それぞれ個別の対応に追われている。また、支援が必要な子どもをもつご家庭に様々な働きかけが必要であり、就学前施設が最初の話合いを担っている。入園前に保護者との話合いや専門機関との連携をし、かかわっていくことで入園後、スムーズに保育を進めることができている。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍でも各幼稚園のひろば、園庭開放等のイベントを大きく自粛することなく実施している。事業実施実績だけを見ると前年度と変わりないが、感染症対策を講じる労力を考えると、努力されていると評価する。

バルーンリリースイベントに参加した際、園長が「コロナ禍の中でも、子どもの学びを止めない」とおっしゃっていた。イベントの実施は保護者として不安はあったが、子どもが喜んでいたのを見て、大事なことだと感じた。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

幼児教育アドバイザーを中心に、園内研修や「チェックリスト」を活用した自己評価等を通して、教員全体の保育力・指導力の向上に向けた取組を継続する。

これまで積み重ねてきた教育実践や研究の蓄積を生かしながら教育活動の更なる充実、教育水準の維持確保に取り組む。

幼児期から小学校期への移行を円滑にすること、遊びから学びにつながる力の育成など、スタートカリキュラムの実践と交流を広げていく。

各中学校区では、キャリア教育の視点に立ち教職員の連携推進を行うとともに、「目指す子ども像」、「つけたい力」等の共有、全体研修、グループでの交流、取組の共有等、子どもを軸にした校種間連携を行う。

泉南市幼稚園教育課程については、国の幼稚園教育要領の改訂に応じ、幼稚園教員と教育委員会による教育課程編成委員会において見直しを行い、本市幼稚園の実態に合わせた人権保育・教育の基準として位置づけている。今後も教育委員会と現場教職員で毎年組織している教育課程編成委員会において、幼稚園の実態や実践を踏まえて再編していく。

点検・評価の重点項目評価調書 3

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	2	小・中学校の教育力の充実
施策項目	①	基礎学力の向上

（１）具体的施策（施策の概要）

①学校教育を活性化するための教職員の資質向上
②教育の質を高める教育研究活動を推進
③学力定着を図るための放課後学習の推進と家庭学習を促進する仕組みづくり
④これからの情報化社会に対応するICT教育の推進
⑤学校と市立図書館の連携による読書活動の推進

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

若手の教職員に自信ややりがいを感じてもらうためには、教育委員会のサポート及び学校内でのOJTが必要だと思う。各学校の校長をはじめ先輩教職員がサポートしていけるような体制づくりをお願いしたい。

学力の捉え方が、定期テストや学力テストで計測できる数値的な学力に特化しているようなイメージを持つ。国が目指しているのは数値だけではなく、思考力や判断力、主体的に学ぶ力であるので、そういったところを伸ばす教育を目指して欲しい。

リモート授業になった場合、発信する側の教職員の能力、施設の設備が整っていないとうまくいかないので、発信する教職員のスキルアップ、施設の整備も気をつけていただきたい。

子どもたちが主体的に学ぶ姿勢を持ち、コミュニケーションを図りながら、対話的に学び、それが深い学びにつながっていくような授業が求められおり、教育委員会には、各学校や学生生活のサポートをお願いしたい。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

①教職員研修の開催
・授業づくりセミナー（年５回開催）…7/28、8/31、10/8、11/18、12/4（オンライン研修含む）
（講師）ちょん　せいこ氏　　（受講者数）延べ150名程度
・大阪府スクールエンパワーメント推進事業校（一丘小、一丘中、鳴滝小）を軸とした公開授業実施と講師による講話（９月、12月、２月）
（講師）元有田市立小学校長　下田　喜久恵氏　（受講者数）延べ60名程度
②泉南市教育研究団体等への負担金等の補助
③泉南スタディ事業
学生等ボランティアによる放課後学習支援（年間延べ50回実施）
④ICT教育の推進に関する整備事業(一部は令和３年度補正予算で対応)**（資料3-1､3-2参照）**
・GIGAスクール構想児童生徒の１人１台学習用iPadの整備
すべての児童生徒に貸与＜4,988台（予備機含む）＞（10月～12月）
・全小中学校の各学級（支援学級除く）に65インチの学習用大型モニターまたはプロジェクターを設置（２月）
・大型モニターとタブレット端末を遠隔で映写するための機器（EZキャスト）を大型モニターすべてに整備（２月）
・市立学校教職員の１人１台校務用PCを整備（２月）[令和２年度160台・令和３年度245台]　計405台
・全小中学校における校舎内Wifi設置工事の完了（３月）
・ICT活用に係る管理職及び担当者研修（11月）
（講師）情報通信総合研究所　平井　総一郎氏
・１人１台タブレット活用における教員研修（11月～12月）
全市立幼・小・中学校教員対象　（講師）NTT西日本
⑤読書活動の推進
・学校司書の配置（５名）…泉南中学校１名常駐、ほか４名で他の13校を巡回した。

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	小中学校の児童生徒数	各年度5月1日現在	人	5,043	4,834		
対象指標②	泉南市立学校数		校	14	14		
対象指標③							
活動指標①	教員研修実施校		校	14	14		
活動指標②	学習用端末貸与数		台	－	4,988		
活動指標③							
成果指標①	教員研修実施校の割合	（実施校÷学校数）×100	%	100.0	100.0		
成果指標②	学習用端末利用率	（端末利用者数÷児童生徒数）×100	%	－	100.0		
成果指標③	全国学力・学習状況調査の結果（対全国比）		%	91.2	－		
事務事業費①	小学校情報機器整備事業		千円	－	207,874	0	
事務事業費②	中学校情報機器整備事業		千円	－	107,747	0	
事務事業費③	教育研究事業		千円	2,102	2,113	1,939	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

新型コロナウイルス感染症等の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現するため、国はGIGAスクール構想を当初令和５年度までの実施目標から令和２年度までの補正予算措置となった。これを受け本市では、全小中学校の児童生徒１人１台の学習用タブレットの貸与が２学期中に実現できたことにより、３学期開始時からすべての子どもたちが学習に活用することができた。

多くの研修が、対面研修からオンライン研修に切り替わるなど、教職員研修の在り方が大きく変わった。

年度当初の全国一斉休業により授業時数の確保が課題となったが、すべての学校において全教科の履修を終えることができた。

学力向上ヒアリングを実施し、各校の学力向上対策の取組について点検を行い、再構築することで学力向上の取組の推進につなげた。

オンライン等による教職員研修の機会を増やしたことにより、教職員の授業づくりに対する意識改革や授業改善への取組への意欲を向上させることができた。

学校司書の配置により、子どものニーズにあった選書や、読み聞かせの充実など、図書館教育を推進することができた。また、各学校の学校図書館の環境整備、学校図書館に来てもらえるようイベントの開催、季節ごとや新刊の書籍のコーナーづくり、図書館利用に当たっての指導などの実施により、特色ある学校図書館づくりを進めることができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
A	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

多くの自治体が苦労している中、泉南市はスムーズにICT環境を整えることができたことは高く評価する。

情報機器の整備を大幅に進めることができたのは大きな成果だ。

実際、現場でタブレット端末を使って授業を行う段階となると、使い慣れていない教員は難しいと思う。研修を実施しづらい状況だが、コロナ禍ではオンライン授業が求められてくるので、先生方の指導力の向上に努められたい。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の促進を図るため、ICT環境整備が大きく進んだ中、授業改善の推進取組をさらに強化する。

子どもの自主性を伸ばす教育の取組、言語活動の充実とともに家庭学習へも力を入れて、学力向上に取り組む。

経験年数の少ない教職員へのサポートやICTを活用した教材の効果的な活用等について、あらゆる研修の機会の充実に努めていく。

各学校における補充学習について、引き続き人材の確保に努める。

点検・評価の重点項目評価調書 4

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	2	小・中学校の教育力の充実
施策項目	②	豊かな人間性と社会性の育成

（１）具体的施策（施策の概要）

・いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等の専門人材を活用し、すべての児童生徒の成長を促す指導を推進する。
・すべての児童生徒の自他共に認め合える人権感覚やきまりを守る等の規範意識等、社会的資質を高め、適切な人間関係づくりや集団づくりを行い、問題行動等の未然防止に努める。
・不登校が長期化している児童生徒への支援、その兆しが見られる児童生徒に対する早期発見と早期対応に向けて、教育支援センターつばさ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、福祉部局等すべての関係機関と連携し、支援を行う。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

指導の難しさはあるが、SNSによる相談窓口を今後の課題として認識してほしい。
夜の泉南LONG PARKは、危険をはらんでいる所になっている。実際、夜間における子どもだけでの外出、未成年者のたばこや飲酒が行われていた事案があるので、市、青少年指導員協議会、警察関係諸機関と協議しながら、青少年の健全な育成に向けた対応について、検討いただきたい。
スケートボードに対する苦情について、教育委員会が安全の確保に向けて関わりを持っていけるような取組を、現状を把握の上、関係機関と調整し、対応を考えていただきたい。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・様々な生徒指導上の課題に対応するため、スクールカウンセラーを各中学校区に１名ずつ計４名を配置、またスクールソーシャルワーカーを３名、スクールソーシャルワーカーサポーターを２名配置し、日頃から教育相談体制の充実に努めた。
・生徒指導、不登校担当者を対象にした研修を実施した。
①令和２年７月27日「スクリーニングシートを活用した児童・生徒支援」
（講師）スクールソーシャルワーカースーパーバイザー　中山　美和氏　（受講者数　37名）
②令和２年12月11日「不登校に対する取組や関わり方について」
（講師）泉南市学校教育アドバイザー　佐野　耕治氏　（受講者数　41名）
巡回訪問の実施した（学期に１回）。
・児童生徒への学校の支援相談と様々な問題を抱える児童生徒の早期発見、早期対応に取り組んだ。
・教育支援センターつばさ指導員とスクールソーシャルワーカーによる連絡会を定期的に開催し、学校支援に努めた。
・大阪府教育庁が示す好事例をもとに、「子どもの成長を促す取組」や気になる子どもたちを洗い出すための「スクリーニングシートの活用」を行った。また、「問題行動対応チャート」を使った生徒指導の対応をはじめ、「児童生徒の適切な行動様式」を示すなど、各学校での実践が進むよう指導助言を行った。
・泉南市、松原市、守口市の府内３市で組織する「SNSノートおおさか」作成委員会とLINEみらい財団が共同して、情報モラル教材「SNSノートおおさか」を作成し、各学校及びタブレット端末に共有した。
（資料4-1、4-2参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	幼・小・中の児童生徒数	各年度5月1日現在	人	5,391	5,172		
対象指標②	幼・小・中の教職員数	各年度5月1日現在	人	418	429		
対象指標③							
活動指標①	相談、訪問、会議等の件数		件	288	398		
活動指標②							
活動指標③							
成果指標①	長期欠席者の推移	30日以上の欠席者	人	136	169		
成果指標②	適応指導教室入室人数の推移		人	5	8		
成果指標③							
事務事業費①	教育支援センター事業費		千円	3,294	2,855	335	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
C	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

いじめは、重大な人権侵害事象として根絶すべき最重要課題であるという認識の下、各学校の「いじめ防止基本方針」に則ったいじめの防止等、すべての児童生徒の信頼関係を育む取組を進めることができた。

定期的に学校を巡回訪問し、不安や悩みを抱えている、あるいは不登校が長期化している児童生徒等の理解を図り、学校と関係機関において早期に情報共有し、課題解決に向けた話し合いが行うことができた。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携により、いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校に対する校内生徒指導体制の見直しや組織的な対応の促進を図るなど、課題解決へ向けた取組が進んだ。

一方、新型コロナウイルス感染症の広がりにより「新しい生活様式」を取り入れた学校生活等、これまでとは違う環境の中で、児童生徒は、様々なストレスにさらされたり、感染に対する不安があったり、家庭環境の変化により様々な思いや悩みを持ったりするなど、子どもに寄り添う機会を増やし、更なる関係機関との連携が必要と感じている。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
C	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

「SNSノートおおさか」や、「問題行動対応チャート」を全小中学校の教職員が活用しているのは、他の自治体と比べても先進的な取組だと評価する。

長期欠席者数については、新型コロナウイルス感染症への健康不安から欠席している子どももいると思うが、全国平均1.5%ほどの中、泉南市は３％を超えている。相談、訪問、会議等の件数は昨年度と比べて40%ほど増え、教職員の皆さんはかなり努力されており、放置しているわけではないというのは内容からよく分かる。長期欠席者はゼロになるのが理想であるが、大阪府や泉州地域の平均など、数値目標を設定できればいいと思う。

様々な対策が講じられているが、コロナ禍やICT化など時代の変化に応じた有効な施策を今後追加的に検討されたい。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等の専門人材を活用するなど、すみやかな課題解決に向けた支援を行うとともに、子ども理解に基づいた組織的な対応と併せて、すべての児童・生徒の成長を促す指導を推進していく。

スマートフォン等でのSNSや無料通話アプリ等を介したネット上のトラブルや誹謗中傷の書き込み、ネット依存等の課題に対し、児童・生徒が主体的に学べる教材「SNSノートおおさか」の活用に取り組む。保護者への啓発活動等も併せて行うよう指導していく。

不登校への対応には、関係機関との連携が不可欠であり、専門家の活用と併せ、保護者とのつながりも大切にしながら、引き続き緊密な連携を図っていく。

子どもの見守りフィルター等や教育相談等から得た情報は、学校と教育委員会においてしっかりと連携し、予防的に取組が進められる体制づくりを今後も推進していく。

点検・評価の重点項目評価調書 5

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課 （ 人 権 国 際 教 育 課 ）

基本方針	2	小・中学校の教育力の充実
施策項目	④	国際化教育の推進

（１）具体的施策（施策の概要）

・JETプログラムや市内の人材を活用した国際化教育及び国際交流の推進

泉南市教育大綱及び泉南市教育振興基本計画に基づき、泉南市の教育をさらに発展的に実施するために重点的に実施する「令和２年度泉南市教育重点施策(SEPP2020)」の１つでもある「国際化教育プラン」として、JETプログラムを活用して全小中学校にALT(外国語指導助手)を１名以上配置することで英語教育の充実を図る。また、幼稚園・保育園所・認定こども園にCIR(国際交流員)を派遣することで幼児期からの国際交流を推進する。CIR/ALT/SEAを市民との交流のために派遣し、市内での国際交流を推進する。

また、令和２年度泉南市教育重点施策（SEPP2020）に基づき、「外国語教育を軸として就学前教育から中学校までのデザインを共有し、関係者で着実な積み重ねができるシステムの構築を図る。」こととしている。

〈参考〉

JETプログラム（外国青年招致事業）…国の予算・協力による国際事業　　ALT(外国語指導助手)…英語の授業をサポート

CIR（国際交流員）…特に日本語が堪能な国際交流員　　SEA（スポーツ国際交流員）…スポーツを通じた国際交流を行う

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

令和２年度からの新規施策

２.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・令和２年11月にオーストラリアより１名来日、ALTとして西信達中学校で勤務。**（資料5-1、5-2参照）**

・西信達中学校で英語の指導を行った。

・新家東小学校に国際交流活動として派遣し、オーストラリアの文化を紹介。**（資料5-2参照）**

・くすのき幼稚園・あおぞら幼稚園の10周年記念イベントに参加し、子どもたちと国際交流活動を行った。

・年度当初予定していたJET-ALTが１名しか来日できなかったため、委託によるALTを２名配置し、10小学校及び３中学校（西信達中学校はJET-ALTを配置）を巡回しながら指導を行った。

・冊子『SENNAN』（ALTと進める英語授業指導マニュアル）を小学校と中学校の教員が協働して作成し、全小中学校に配布した。**（資料5-3、5-4、5-5参照）**

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在	人	－	60,795		
対象指標②	小・中の児童生徒数	各年度5月1日現在	人	－	5,075		
対象指標③							
活動指標①	CIR/ALT/SEAの配置人数		人	－	1		
活動指標②	国際交流活動への派遣回数		回	－	2		
活動指標③							
成果指標①	交流後の市民児童生徒の交流内容満足度評価	（肯定的回答人数÷回答人数）×100	%	－	80		
成果指標②	児童生徒のＡＬＴ配置による外国語授業満足度評価	（肯定的回答人数÷回答人数）×100	%	－	80		
成果指標③	※成果指標①②R2実績の80%については、児童生徒へのアンケート未実施のため、先生からの聞き取りをもとに数値化したもの。						
事務事業費①	JETプログラム事業		千円	－	6,393	34,137	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
C	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

JETプログラム事業は、ALT・CIR・SEA合わせて27名を任用し、国際化教育の推進を行っていく予定だったが、令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により年度途中からのALT１名の任用となってしまったため、市内14小中学校のうち、ALTの常駐配置ができたのが１校であり、限定的な事業となってしまった。

任用したALTについては、市内中学校での英語教育充実のために、英語教員とともに英語の授業を行い、生徒の英語力向上のために活動を行った。常駐することで、ネイティブな発音に常に触れる経験ができた。

また、感染症対策を行いながら市内２校での国際交流活動を行った。「オーストラリアのことを知れて良かった。」「自分たちでもいろいろな国のことを調べてみたい。」という子どもたちの声があった。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

JETプログラムを柱として泉南市は国際化に向けて素晴らしい活動に着手されている。

新型コロナウイルス感染症の影響で計画どおりに事業が進まなかったとしても、子どもたちに国際化教育の扉が開かれたことは評価したい。

代替事業が実施できない状況で、JETプログラム事業について、１名のALT（外国語指導助手）の配置、英語授業指導マニュアルとして冊子「SENNAN」の作成等、最大限この１年を活用して成果を残すことができたと評価する。

現場としては、特に小学校について専門性がない中でALT（外国語指導助手）が来ないということは大変だったと思う。そんな中で、冊子「SENNAN」という統一した指導マニュアルを作成されたということで、努力されていると思う。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

JETプログラム事業で配置しているALTを活かした小学校での外国語、中学校での英語の授業を通して、外国語（英語）の授業を楽しいと感じる子どもを増やす。

JET-CIR、SEA、ALTを幼稚園、保育園所、認定こども園などに派遣し、国際交流活動を行うことで、多文化理解、国際理解教育を進める。

点検・評価の重点項目評価調書 ６

担当課 （教育総務課学校給食センター）

1.基本的事項 【ＰＬＡＮ】

基本方針	2	小・中学校の教育力の充実
施策項目	⑤	食育の推進

（１）具体的施策（施策の概要）

・安全・安心な学校給食の提供
　学校給食法をはじめとする関連法令に基づき、食育の推進と子どもの心身の健全な発達に寄与するため、小学校及び中学校へ安全・安心な学校給食を提供する。また、令和２年度については、新型コロナウイルス感染症対策事業を行う。

・学校給食を通じた食育の展開
　学校授業へ食育の観点を加えるとともに、学校給食において地場産品を使用した献立や季節に応じた行事食を提供することにより、地域の伝統や文化に対する理解の深化に努める。

（２）前年度までの主な課題 （評価委員からの指摘事項等）

・学校の臨時休業により生じた余剰食材を、廃棄することなく保育所で活用できたことは良いことである。
・今後、自然災害のうち台風のように進路が予測できるものであれば、あらかじめ休校措置を取ったり、簡易給食に変更したりするなど、食材のロスが生じないよう柔軟な対応を期待する。

2.施策の現状把握 【ＤＯ】

（１）活動内容

・全児童生徒へ安全・安心で栄養バランスのとれた学校給食を安定して提供することができた。
・令和２年度は、新型コロナウイルス感染症対策事業を行った。ただし、令和２年４月、５月は新型コロナウイルス感染症に伴い学校が臨時休業となったため、学校給食も停止した。

（１）小学校給食提供事業：１億4,423万6,761円**（資料6-1、6-3参照）**
・給食調理日数：177日／副食提供数：596,232食／給食業務委託料：9,626万8,055円

〇新型コロナウイルス感染症対策事業：１億237万3,101円
・学校給食費無償化支援事業補助金：8,271万3,662円
・需用費、備品購入費　1,965万9,439円

（２）中学校給食提供事業：8,869万5,426円**（資料6-2、6-4参照）**
・給食提供日数：176日／給食提供数：274,261食／給食業務委託料：8,390万470円

〇新型コロナウイルス感染症対策事業：4,590万400円
・学校給食費無償化支援事業補助金：4,590万400円

・児童生徒に教科の目標や内容を身に付けさせ、併せてその過程に食育の視点を位置づけることを目的として、学級担任と栄養教諭等が連携した授業を実施した。**（資料6-5～8参照）**

・小学校　２年生道徳科／３年生社会科／３年生国語科
・中学校　１年生総合的な学習の時間等

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	児童数	小学校（各年度5月1日現在）	人	3,302	3,184		
対象指標②	生徒数	中学校（各年度5月1日現在）	人	1,741	1,650		
対象指標③							
活動指標①	年間副食提供数	小学校	食	599,734	596,232		
活動指標②	年間給食提供数	中学校	食	293,714	274,261		
活動指標③							
成果指標①	給食を満足だと感じている児童の割合	小学校	%	84.5	85.4		
成果指標②	給食を満足だと感じている生徒の割合	中学校	%	44.0	51.0		
成果指標③							
事務事業費①	小学校給食提供事業		千円	129,404	246,610	131,459	
事務事業費②	中学校給食提供事業		千円	76,035	134,596	95,580	
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

学校給食を安定・継続して提供したことにより、児童生徒の健全な発育に資することができた。

新型コロナウイルス感染症対策事業の一環として、令和２年８月から令和３年３月までの８か月間、学校給食費を無償化したことにより、児童及び生徒の保護者の経済的負担を一定軽減することができた。

新型コロナウイルス感染症対策事業の一環として、保健衛生に関する消耗品と備品を整備したことにより、学校給食の配食や喫食時における衛生環境を向上させることができた。

教科の授業に食育の視点を追加したことによって、児童生徒が食に対する興味を持つ機会を設けることができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍における学校給食費無償化事業、衛生環境の整備、食育に関する教科授業の推進等、事業費を見ても例年以上の対応をされている。計画を大幅に上回ったとは言えなくても、子どもたちの満足度は若干上がっている。

全小中学校への栄養教諭の配置は難しいと思う。現場が大変な中で、実施は困難という声もあるかもしれないが、信達中学校への食育出前授業のような取組については、栄養教諭が配置されていない学校でも実施して、市全体で食育を推進していただきたい。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

給食の衛生環境については、今後も一定のレベルを保つよう努めるとともに、給食の内容については、毎年実施しているアンケート結果を踏まえて献立や地産地消に関して工夫を重ね、児童生徒の満足度が向上するよう努める。

食育に関する教科授業等は、今後も継続して各学校で順番に実施していく。また、当該授業の企画実施に携わる栄養職員・栄養教諭の加配については、デリバリー方式が共同調理場方式と同様の配置基準となるよう継続して大阪府等へ要望していきたい。

点検・評価の重点項目評価調書 7

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課 （ 人 権 国 際 教 育 課 ）

基本方針	2	小・中学校の教育力の充実
施策項目	⑥	小中一貫教育による学習の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

泉南市教育振興基本計画を受け、平成29年３月の教育問題審議会答申「計画の理念実現を図る学校規模適正化を含めた学校の在り方について」において、「泉南市の子どもたちの生きる力と確かな学力を育成するため、今後40年間を目途に、児童生徒数の推移、建物の耐用年数等を踏まえた上で、すべての小学校と中学校を小中一貫校とすることをめざす」という方針が示された。

全中学校区で立ち上げた小中一貫教育推進組織において、各中学校区の「めざす子ども像」を軸に、保幼こ小中の連携を含めた小中一貫教育を推進している。

また、令和２年度泉南市教育重点施策（SEPP2020）に基づき、「外国語教育を軸として就学前教育から中学校までのデザインを共有し、関係者で着実な積み重ねができるシステムの構築を図る。」こととしている。（再掲）

※小中一貫教育とは「小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」である。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

各中学校区ではカリキュラム作り中心の活動を行っているが、それに加えて公開授業や研究授業、教職員同士の交流も進めていく。

中学校区においては、就学前機関との連携に力を入れている校区もあるので、その取組を今後も着実に進めていく。

2.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・小中一貫教育連絡会　１回

・小中一貫教育実務担当者会議　１回

【中学校区の会議・研修】

・一丘中学校区・・・４回　　・泉南中学校区・・・４回

・信達中学校区、西信達中学校区はコロナ禍のため、未実施

・冊子『SENNAN』（ALTと進める英語授業指導マニュアル）を小学校と中学校の教員が協働して作成し、全小中学校に配布した。**（再掲）（資料5－3、5－4、5－5参照）**

・小中学校再編計画の住民説明会・・・コロナ禍のため令和３年度に延期

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標②	児童生徒	各年度5月1日現在	人	5,389	5,075		
対象指標③	教職員	各年度5月1日現在	人	641	577		
活動指標①	市内全小中学校対象の小中一貫教育会議		回	4	2		
活動指標②	小中学校再編計画の住民説明会		回	－	0		
活動指標③							
成果指標①	中学校区での会議・研修		回	－	8		
成果指標②	人権教育の充実のための研修や学習会		回	－	15		
成果指標③							
事務事業費①	キャリア教育推進事業		千円	300	300	300	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

令和２年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、小中一貫教育の会議や研修を実施できなかった中学校区もあったが、２中学校区ではキャリア教育や各教科指導など、小中９年間の教育課程の編成に関して共有や協議を進めることができた。

また、小中一貫教育担当者会では令和２年度から、キャリア教育の系統性を意識した各学校の取組交流を行っている。

小中学校の教員が協働で作成した冊子『SENNAN』を活用して、市内全小学校の外国語授業で統一したマニュアルを基に授業を展開することができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

中学校区単位の会議が学期に１回以上開かれていて、積極的に小中一貫教育の取組が進められていると評価する。小中学校の教員が、小中学校に関係なく顔を合わせる機会が増えることは大事なことだと思う。

教職員の現場での連携が強化され、子どもたちを受け入れる体制作りの基礎が作られている。結果として学力向上につながれば良いと思う。

タブレット端末が導入されたので、情報教育についての小中学校の接続が重要であり、系統的なカリキュラムが成果として出てくれば更に良い。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

中学校区単位での会議を定期的に行い、教科指導や人権教育、キャリア教育の取組の充実を図っていく。

特に、外国語教育、英語教育については、JET-ALTや冊子「SENNAN」を活用した授業について、各校での実践事例等を交流する中で、よりよい活用方法を広めていく。

点検・評価の重点項目評価調書 8

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	3	明るく安心できる学習環境の整備・充実
施策項目	①	教職員の資質能力の向上

（１）具体的施策（施策の概要）

・学校運営の円滑化支援
・適切な教職員の人事管理
・教育の質を高める研究活動
・働き方改革を考慮した計画的な研修の実施

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

昔であれば、空き時間に先輩教職員の授業を見に行き、自分の教育力の向上のために取り入れたりすることもできたが、今は、授業準備、生徒指導等でなかなか授業を見に行く機会も少ない。こんな授業もできる、こんな方法もあるということを知ることは、教育力の向上につながるので、泉南市全体でしっかりコミュニケーションを取り、各学校とのコミュニケーションの中で力をつける教職員が増えることを期待する。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・教職員研修の実施
喫緊の教育課題に対応するため、また社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成するため管理職研修や教職員向け研修を実施した。（研修回数）12回（受講者数）延べ714名
研修においては、すべての教職員に、より確かな人権意識を身に付けさせることが大切であるという認識の下、管理職自らも自身の資質・能力の向上に努めた。
また、NITS独立行政法人教職員支援機構による中央研修（オンライン研修等）へ大阪府の推薦を受け４名が参加した。

・オンライン研修の推進
多忙な教職員が、コロナ禍の中でもオンデマンドで学べるよう、教職員支援機構（NITS）のオンライン研修ビデオ等を活用した校内研修、教職員研修を推進した。

・学校教育アドバイザーの新設
学校教育アドバイザー１名を新たに雇用し、各校の校内研修等を支援した。

・不祥事防止、体罰及びハラスメントの防止
教職員の服務規律については、毎月及び随時、校園長に対し情報提供を行うとともに、長期休業前には改めて自重自戒いただくよう通知を行っている。体罰や児童生徒へのセクハラについては、幼児・児童・生徒の人権を著しく侵害する行為であり、絶対に許されないことについて、校園長会を通じてすべての教職員に周知した。また、職場におけるハラスメントは、個人の人格や尊厳を侵害し、職場環境を悪化させる許されない行為であることについても、すべての教職員に向けて周知するとともに快適で働きやすい職場環境づくりに努めた。

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	幼小中学校数		校園	16	16		
対象指標②	教職員数	各年度5月1日現在	人	418	429		
対象指標③							
活動指標①	研修実施校園		校園	16	16		
活動指標②	中央研修参加者数	大阪府の推薦による参加	人	6	4		
活動指標③	府市研修参加者数		人	418	429		
成果指標①	研修実施校の割合	（実施校÷学校数）×100	%	100	100		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①	教育推進事業		千円	38,033	54,608	120,590	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

・教職員研修の実施
　市内幼・小・中学校において研修を実施し、資質・能力の向上の一助とすることができた。
　研修テーマとして、「学力向上」、「情報ICT教育」、「授業づくり」等
　大阪府教育センター主催の自主研修への参加
　NITS独立行政法人教職員支援機構による中央研修（オンライン研修等）へ大阪府の推薦を受け４名が参加した。
・オンライン研修の推進
　大阪府の研修をはじめ、多くの研修がオンラインにより開催されるなど、オンデマンドで学べるための動画を活用した校内研修、教職員研修を推進した。
・学校教育アドバイザーによるプログラミング教育の実施と全教職員への研修の充実
・不祥事防止、体罰及びハラスメントの防止
　教職員の服務規律徹底により、本市における不祥事案件は生起していない。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

　GIGAスクールの研修に力を入れておられ、オンライン研修にもいち早く対応する等、ICT教育の資質向上に積極的に取り組まれた事は評価できる。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

　社会の変化に対応できる「学び続ける」教職員を組織的・継続的に育成するために、各校園における研修計画に基づきすべての教職員が積極的に研修できる環境づくりに努める。

　すべての教職員がより確かな人権意識を身につけることが重要であることから、教職員の人権研修を更に充実させる。

　管理職自らが自身の資質・能力の向上を図りながら、次代の管理職・ミドルリーダーの育成も同時に進められるよう支援していく。

　教職員による不祥事の発生を予防し、未然防止を図るため「不祥事防止に向けたワークシート集」等を校内研修等で活用し、教職員が不祥事予防について、自ら考える機会を持ち、一層の服務規律の確保を図るよう努める。

　職場におけるあらゆるハラスメントの防止に向けて、教職員研修、相談窓口の周知及び対応マニュアルの周知徹底を図るとともに、毎学期ごとに校園長へ指導・助言を行う。

点検・評価の重点項目評価調書 ９

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　教　育　総　務　課　）

基本方針	3	明るく安心できる学習環境の整備・充実
施策項目	④	市長や教育長に具体的な声を反映できる仕組み

（１）具体的施策（施策の概要）

・子どもの悩みや不安などを、直接、市長や教育長に手紙で届ける「子どもの声制度」を実施している。
・子どもの声は、いじめ、体罰、虐待など誰にも打ち明けることができず、誰に相談すればよいかがわからず、悩みを抱えたままでいる子どもを一人でもなくしていくため、手紙で相談することができる制度。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

・手紙が届いた数が少なかったため、誰にも言えない悩みを抱えている子どもが少ないと考えることもできるが、「子どもの声制度」の趣旨が子どもに伝わっていない、保護者から子どもに制度が周知されていない可能性がある。周知方法を工夫するなど、声が埋もれてしまわないような対応をお願いしたい。
・「子どもの声制度」の趣旨を、学校の先生方から子どもたちに、きちんと制度の趣旨が伝わるようにしていくことが大切である。
・本来であれば、この制度を利用せずとも子どもたちが学校の先生方に悩みを伝え、相談ができることが大切であり、「子どもの声制度」と併せて、学校生活の中で相談や対話ができる体制づくりをお願いしたい。
・パンフレットや映像で、記載例や解決例を全生徒がわかるようなものを作ることができれば、趣旨が伝わり、抑止力にもなると思う。

２. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・７月の校園長会において、制度の趣旨を説明し、配布する先生方へ制度趣旨などを丁寧に説明するようにお願いした。

・夏季休業前の７月中旬に、学校を通じて全中学校生徒に「子どもの声制度」の用紙及び保護者に子どもの声の説明文を配布した。また、学校宛に大阪府の相談機関などをお知らせし、児童生徒への周知をお願いした。
（資料9-1参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	中学校生徒数	各年度5月1日現在	人	1,741	1,650		
対象指標②							
対象指標③							
活動指標①	子どもの声配布生徒数	各年度5月1日現在	人	1,741	1,650		
活動指標②							
活動指標③							
成果指標①	子どもの声提出数		件	2	0		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①							
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	**A**：計画を大幅に上回っている **B**：概ね計画どおり **C**：計画をやや下回っている **D**：計画を大幅に下回っている

校長へ制度説明を行い、生徒及び保護者に制度内容や制度の趣旨を理解してもらえるよう、丁寧な説明をお願いし、中学校生徒全員に「子どもの声制度」の用紙及び保護者に子どもの声の説明文を配布した。

悩みや不安などの相談はなかったが、制度の内容、趣旨が生徒及び保護者に理解してもらえるよう努めた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	**A**：非常に良好 **B**：概ね良好 **C**：やや不十分 **D**：不十分

実績がないということが、問題が生じていないとも捉えられるし、制度自体が十分に理解し利用されていないとも捉えられる。

制度があるならば生かさなければならないので、授業の一環として実施できないのか。利用件数が少ないので、全員から回収してはどうか。ダイレクトに市長と教育長に直接相談するのは、子どもにとってはハードルが高く、宿題のような形にしないと意見は集まらないと思う。

悩んでいることやしんどいことを本人が自覚している場合はいいが、他の人と違う環境だということに本人が気づいていない子どもはどうすればいいのかが気になる。例えば、「毎日ごはん食べている？」、「学校で友達に嫌なことされていない？」とか、説明文の中に具体的な事例を示すと子どもにとってわかりやすいのではないか。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

本制度は、友達、先生、親など誰にも相談できない悩みや意見などを直接市長や教育長へ届けることができる最終的なセーフティネットとするため、他の相談事業との役割分担を図り、慎重な運用に努めていきたい。

生徒及び保護者に対して本制度の周知と趣旨の理解を促すとともに、制度の利便性を高める工夫を行っていく。

点検・評価の重点項目評価調書 10

担当課（　教　育　総　務　課　）

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	4	安全・安心な教育環境の整備
施策項目	①	安全・安心かつ多様な教育等に対応した学校施設

（１）具体的施策（施策の概要）

・小中学校施設の適切な保全維持
　本市の小中学校施設は泉南中学校を除いて、老朽化が進んでいる。学習の場であるとともに生活の場でもある学校において、安全安心で良好な教育環境を提供するため、学校施設の保守点検、施設警備、その他維持管理を委託するとともに、必要な修繕及び改修工事などの保全整備を実施する。
・老朽化が大きな課題となっている小中学校施設について再編計画策定に取り組み、老朽化対策を進める。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

・学校施設の保全整備等については、鋭意作業を進めている小中学校再編計画の早期策定に努め、二重投資にならないよう計画的に整備を進める。
・学校施設の維持管理・修繕については、児童生徒の学校生活における安全性と快適性の確保に向けて、優先順位をつけて適宜実施するとともに、必要な予算の確保に努める。

２.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・電気工作物保安管理、消防設備点検、受水槽清掃、エレベーター点検等の保守点検や施設警備を行った。
・空調、揚水ポンプ、遠隔施錠システム、放送設備、屋上防水、建具など各小中学校施設及び設備の修繕を行った。
・西信達小学校屋上防水改修工事、新家小学校トイレ改修工事、砂川小学校トイレ改修工事、西信達中学校屋上防水改修工事、泉南中学校外構、グラウンド整備、植栽整備工事を行った。**（資料10-5参照）**
・泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞を作成した。**（資料10-1～4参照）**

（１）学校管理事業
　・小学校　97,408千円（修繕料　3,545千円、委託料　31,857千円）
　・中学校　51,453千円（修繕料　2,921千円、委託料　10,162千円）
（２）学校施設保全整備事業
　・小学校 237,900千円（修繕料　20,672千円、新家小学校トイレ改修工事　94,483千円、砂川小学校トイレ改修工事　102,194千円、西信達小学校屋上防水改修工事　9,798千円）
　・中学校　25,036千円（修繕料　7,440千円、西信達中学校屋上防水改修工事　9,725千円）
　・新型コロナウイルス感染症対策事業(小中学校)　5,049千円（大型サーキュレーター各学校４台）
（３）中学校老朽化対策事業　114,880千円
　・泉南中学校関連工事（外構 78,028千円、グラウンド整備 22,487千円、植栽整備 11,615千円）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	小中学校施設数		校	14	14		
対象指標②	児童数	各年度5月1日現在	人	3,302	3,184		
対象指標③	生徒数	各年度5月1日現在	人	1,741	1,650		
活動指標①	修繕件数		件	291	330		
活動指標②	工事件数		件	17	7		
活動指標③	小中学校再編計画の住民説明会		回	―	0		
成果指標①	保全執行率	（修繕費決算額÷修繕費予算額）×１００	%	89.37	99.58		
成果指標②	工事実施率	（工事完了件数÷工事予定件数）×１００	%	100.00	100.00		
成果指標③							
事務事業費①	小中学校管理事業		千円	138,384	148,862	173,519	
事務事業費②	小中学校施設保全整備事業		千円	607,965	267,984	152,073	
事務事業費③	中学校老朽化対策事業		千円	311,421	114,880	―	

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

各施設の点検、警備、修繕を適宜実施することにより、教育施設の安全性及び快適性を確保することができた。

新家小学校、砂川小学校のトイレを改修することにより教育環境の快適性を向上させることができた。

泉南中学校の外構工事、グラウンド整備工事、植栽整備工事を実施することにより、泉南中学校の改築を完了することができた。

泉南市立小中学校再編計画＜複数原案＞は策定したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、住民説明会を延期し、再編計画＜複数原案＞の説明動画を作成して計画内容の周知に努めた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

保全執行率は高く、適正な保全に努められている。

大型サーキュレーターを各校体育館に４台整備されていて、新型コロナウイルス感染症対策の設備が整ったことは評価できる。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

学校管理事業及び施設保全整備事業においては、施設の老朽化状況を認識し、子どもの安全性及び快適性を確保するため、適切な維持管理と保全に向けて十分な予算確保に努める。

小中学校再編計画については、＜複数原案＞をもって住民説明会を実施した後、改めて複数案を作成し教育問題審議会へ諮問を行う。

点検・評価の重点項目評価調書 11

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	4	安全・安心な教育環境の整備
施策項目	③	通学時の安全確保

（１）具体的施策（施策の概要）

・青色防犯パトロール、見守り活動の支援と促進
・通学路安全プログラムに基づく関係機関との連携強化
・スマートフォン等の適切な取扱い指導

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

通学路で見守りの活動をされている方々も高齢化が進んで少なくなってきている。市民の自主的な活動に任せ過ぎていると思う。新しい人材を確保し、危険な箇所に人を配置し、子どもたちを見守りできる状態を全小学校区で確立するというような新たな取組を考えていただきたい。

子どもの安全確保のため、小学校児童の下校時間にあわせた「子どもの見守り放送」により、そろそろ表に出ようかとか、外を歩いている子どもの顔を見に行こうか等、協力してくれる市民もたくさんおられると思うので良い取組だと思う。防災無線を活用した定時一斉放送であるので、可能かどうかはわからないが、短縮授業日など子どもの帰る時間と連携できれば、なお良いと思う。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

通学路交通安全プログラムに基づいて、泉南市通学路安全対策推進協議会を開催し、関係機関との情報交換を行うとともに、危険箇所の点検などを行った。（７月）

子どもたちへ交通安全教育を広めるため例年２月に実施している「子ども安全大会」は、コロナ禍の影響によりを開催をとりやめた。

児童生徒の登下校や放課後の安全を確保するため、学校、保護者、地域の関係団体が連携して見守り活動や青色防犯パトロールを実施した。

・登下校の見守り活動実績…延べ12,836人
・青色防犯パトロール活動実績…延べ927人

危機管理課と連携し、毎週火曜日と木曜日の午後４時（長期休業日を除く）に、防災無線放送を活用し、市内全域に子どもの安全な通学を見守るための放送を行った。

令和元年度に引き続き、大阪府遊技業協同組合より、「青色防犯パトロール車両」が寄贈された。（一丘小学校区へ）**（資料11-1参照）**

広報せんなん１月号に「子どもの安全見守り活動」「青色防犯パトロール」の募集に関して掲載した。

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	泉南市立学校在籍児童数	各年度5月1日時点	人	3,302	3,184		
対象指標②	泉南市立小学校数		校	10	10		
対象指標③							
活動指標①	青色防犯パトロール活動		校	10	10		
活動指標②	子どもの安全見守り活動		校	10	10		
活動指標③							
成果指標①	青色防犯パトロール活動率	パトロール活動実施校区÷全小学校区×100	%	100	100		
成果指標②	子どもの安全見守り活動率	見守り活動実施校区÷全小学校区×100	%	100	100		
成果指標③							
事務事業費①	青色回転灯装備防犯パトロール支援事業補助金		千円	－	－	1,273	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

令和２年度は新型コロナウイルス感染症により当初予定と各会議等の開催時期が延期や中止になり予定通りに開催できていない。
コロナ禍の中、感染症対策を徹底し青色防犯パトロール講習会など各会議を開催した。
各地域との青色防犯パトロール連絡会を開催し論点となった人員の減少に関しては広報への掲載を行った。
泉南市通学路安全対策推進協議会を開催し、危険箇所の改善が進んだ。
子どもたちの安全に関しては、各メンバーの減少の対策や危険箇所の把握改善を継続していく必要がある。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

青少年指導員協議会に、学校からパトロールの依頼があった。教育行政と青少年指導員協議会、青色防犯パトロールが、見守り体制について連携できないか考えているが、なかなか進めにくい組織構造であると感じる。学校教職員の学校外の取組が難しい現状を踏まえて、地域の協力者を得て、子どもの見守りを強化していく必要があると考えている。

NTT docomoが実施している研修があり、青少年指導員に行った研修が有効だった。スマートフォン等の適切な取扱い指導として、何か具体的な取組をしたらよいのではないか。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

青色防犯パトロールや見守り活動の継続に向け、人材確保や人材発掘についてボランティア等の募集を積極的に行うなど、各学校の協力のもとに保護者や地域への働きかけを依頼する。

通学時や学校の安全については、交通安全や防犯、防災と課題が多いため、関係機関や関係部局との連携を引き続き行っていく。

通学路の危険箇所については、学校が知り得た情報を速やかに教育委員会と連携し改善するとともに、大規模な改善が必要な場合は、毎年度開催する「泉南市通学路安全対策推進協議会」において、安全な通学路実現に向けて引き続き取り組む。

点検・評価の重点項目評価調書 12

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課　（生涯学習課埋蔵文化財センター）

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	②	社会教育の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

文化遺産の保護と活用
①文化財の調査研究　埋蔵文化財や歴史的建造物などの文化財を調査研究する。調査成果を価値づけることで特に保護するべき文化財を選定することが目的。
②文化財の活用　文化財の調査研究の成果を、学校教育や社会教育のほか地域振興等に活かす。多面的に活用を促すことで、文化財保護の必要性を市民に納得してもらうことが目的。
③文化財保護の担い手育成　文化財の活用を住民協働で実施することで、文化財を保護し活用する担い手を育成する。少子高齢化が進む今後も持続可能な文化財保護の体制づくりが目的。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

新型コロナウイルス感染症の影響で、参加人数を増加させることは難しいと思うが、工夫しながら、泉南市の文化遺産の周知をお願いしたい。
埋蔵文化財センターを中心に、色々知恵を絞って、文化財を活用していただいきたい。

２. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

①文化財の調査研究
・埋蔵文化財の発掘調査及び試掘調査を18件実施した。
・山田家住宅（国登録有形文化財）の建造物報告書を発行した。
・山田家住宅所蔵の古文書を調査しその成果を建造物報告書に併せて掲載した。
②文化財の活用
・学校教育への協力、出張授業を実施した。（15回・1,164人）
・市民所有の文化遺産（せんなんのたからもの）を活用した。（５回175件）
・研究目的での文化財の資料観察を受け付けた。（１回２点）
・重要文化財海会寺跡出土品の常設展示及び企画展示を実施した。（３回）
・フィールドワークを実施した。（４回・69人）
・自宅で楽しめる体験学習キットを配布した。（５回・151人）
・夏休みこども遊び広場を実施した。（５回・129人）
・文化財にかかわる講座を実施した。（２回・45人）
・歴史的建造物を活用した誘客促進事業を運用開始した。（15件の歴史的建造物を活用）
＊なお感染症拡大防止のため事業実施にかかるボランティアは募集しなかった。
③文化財保護の担い手育成
下記事業を実施する予定だったが感染症拡大防止のため中止した。
（海会寺ハスいっぱいプロジェクト、域学連携で取り組む文化財を活かした地域づくり、史跡公園を核としたコミュニティづくり事業）

（資料12-1参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標②							
対象指標③							
活動指標①	市民が活用した文化財の件数		件	128	175		
活動指標②	活用の担い手となった人数	ボランティア登録者など事業への参画者数	人	20	0		
活動指標③							
成果指標①	入館者及び施設外への出張事業参加者	施設利用者数+施設外での利用者数	人	10,340	5,216		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①	文化財保存活用事業		千円	4,698	882	798	
事務事業費②	子どもの居場所づくり事業		千円	302	22	50	
事務事業費③	誘客連携による地域活性化事業		千円	0	1,400	1,400	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

①文化財の調査研究では、山田家住宅の価値づけを行うことができた。今回の調査により、山田家で所蔵する古文書が近世泉州地域の歴史解明に不可欠な資料であることが確認された。今後は古文書の調査をすすめ、その成果を報告書として取りまとめたい。

②文化財の活用では、感染症拡大防止のため事業を縮小する中で、コロナ禍でも実施可能な文化財の新たな活用方法を事業化した。〔おうちでまいぶんクラブ（体験学習キットの配布）、歴史的建造物を活用した誘客促進事業（たてもの御財印めぐり）〕

③文化財保護の担い手育成では、感染症拡大防止のため例年実施していた事業を取り止めた。にぎわいの創出を取組の目標とするのではなく、異なる目標を検討したい。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍の影響で、事業の参加人数が減少し、実施できなかった事業もあるが、その中で新型コロナウイルス感染症対策を講じ、新たな代替事業を実施している。

コロナ禍で事業を縮小せざるを得ない状況でも、実施可能な新たな事業を模索・実施したことは評価する。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

様々なチャンネルを使った事業を実施することで、成果指標の実績向上に努める。

点検・評価の重点項目評価調書 13

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　生　涯　学　習　課　）

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	②	社会教育の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

①幼少期から、体を動かす楽しさを体験できるスポーツ・健康のまちづくり推進
　スポーツ推進委員によるスポーツ・レクリエーション事業の開催、体育協会による泉南市総合体育大会・りんくうマラソン大会の開催

②１年延期され2022年５月に開催される生涯スポーツの祭典「ワールドマスターズゲームズ2021関西」においてオープンウォータスイミングを開催に向けた準備及びプレ大会の開催

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　少子高齢化により取組への参加人数が年々厳しくなっていると思うが、参加が少ない世代を巻き込むような工夫をお願いしたい。

２.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

①スポーツ推進委員事業
　わくわくスポーツ教室は新型コロナウイルス感染症により中止となった。また親子スポーツ教室においても一部中止となった。
　親子スポーツ教室では対象を親子だけでなく祖父母と孫等の参加も可能として幅広い年代にスポーツをする機会を提供した。**（資料13-1、13-2参照）**

②泉南市総合体育大会・りんくうマラソン事業
　泉南市総合体育大会において17種目の競技を開催した。りんくうマラソン大会において、密になる種目については実施せず新型コロナウイルス感染拡大予防に努め開催した。**（資料13-3、13-5～9参照）**

③関西ワールドマスターズゲームズ・オープンウォーター競技大会開催事業
　本大会に向け運営マニュアル、安全対策等検討した。またプレ大会は新型コロナウイルス感染症により延期した。開催地及び泉南市PR動画を作成し、YouTubeへアップした。**（資料13-4参照）**

④新型コロナウイルス感染症対策事業
　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、非接触体温計及びサーマルカメラを購入した。
　・非接触体温計　　6本　　39,600円
　・サーマルカメラ　2台　715,484円

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度３月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標②	市民	各年度３月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標③	概ね30歳以上の参加者（人口・国内）		人	92,480,000	92,480,000		
活動指標①	親子スポーツ教室開催回数		回	14	5		
活動指標②	市総合体育大会競技数		種目	16	17		
活動指標③	総会、会議、会合、協議の参加回数		回	32	6		
成果指標①	参加者数		人	463	150		
成果指標②	参加者数（体育大会・マラソン）		人	1,587	1,250		
成果指標③	会議、会合、協議の出席率	出席回数÷会議等の回数×100	%	100	100		
事務事業費①	スポーツ推進委員事業		千円	523	427	546	
事務事業費②	市民総合体育大会事業・りんくうマラソン大会事業		千円	1,312	1,662	1,109	
事務事業費③	関西ワールドマスターズゲームズ開催事業・オープンウォーター競技大会開催事業		千円	4,750	12,208	15,055	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	**A**：計画を大幅に上回っている **B**：概ね計画どおり **C**：計画をやや下回っている **D**：計画を大幅に下回っている

①スポーツ推進委員事業の親子スポーツ教室では、対象を親子だけでなく祖父母と孫等の参加も可能として幅広い年代にスポーツをする機会を提供した。

②泉南市総合体育大会において新たに水泳競技を開催した。

③運営マニュアル、安全対策マニュアル等の検討を行った。また泉南市の魅力をPRした。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
A	**A**：非常に良好 **B**：概ね良好 **C**：やや不十分 **D**：不十分

親子スポーツ教室の開催回数や、体育大会の参加者数が減っているという現状はあるが、泉南市総合体育大会において、新たに水泳競技を開催しており、コロナ禍でも、感染症対策を講じて新たな取組をしたことを評価する。

コロナ禍においても、スポーツ施設を市民が安心して利用できるよう設備を充実し、指定管理者へ支援をして、継続的な運営をしてもらえるよう取り組んでおり、スポーツ施設の安全安心を確保しているのは評価すべき。よく努力された。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

スポーツをすることで楽しさや喜びを得ることにとどまらず、青少年の健全な成長や健康、体力の増進、生活習慣病の予防など健康寿命の延伸等につながるように内容等を検討するとともにスポーツを通じた賑わいの創出、地域活性化などにつながるよう関係団体等と協力してスポーツ施策の推進に努める。

点検・評価の重点項目評価調書 14

担当課 （ 文 化 振 興 課 図 書 館 ）

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	②	社会教育の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

・市民の文化芸術活動の促進
　文化ホール・図書館の施設利用者が安全で安心して各サービスを利用できるように、指定管理者が、適切に建物の維持管理をすると同時に、地域の団体と連携し、市民の文化芸術活動の促進のため、自主事業と貸館事業を行う。

・庁内各課や学校・園等と連携して、市主催のイベントや各種式典の開催を行う。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　コロナ禍にあって、ガイドラインに基づいた自主事業の再開、安全・安心な貸館事業の検討。

　文化ホールの照明・音響等の舞台設備や諸室の空調設備、建物の老朽化が著しく進んでおり、緊急性の高いものから計画的に修繕を行っていく必要がある。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

　文化ホールにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止のための検温機器、アルコール等の設置・消毒・各部屋の定員制限など利用者が安全・安心して施設を利用できるよう適切な管理を行った。

　文化ホールにおいて、ピンスポットライト（照明設備）や誘導灯（消防設備）の更新、外壁タイル不良部分の修繕を行った。

　指定管理者による文化ホール・図書館中庭の木製ベンチの更新、教育委員会による図書館入口照明の改良など、両者が役割分担し、市民が憩えるスペースづくり、より良い居場所づくりを行った。

（資料14-1参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標②	文化ホール数		館	1	1		
対象指標③							
活動指標①	開館日数		日	295	254		
活動指標②	自主事業数		回	7	0		
活動指標③							
成果指標①	入場者数		人	30,998	13,304		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①	文化ホール指定管理事業		千円	29,844	37,712	32,677	
事務事業費②	文化ホール協議会事業		千円	37	0	45	
事務事業費③	新型コロナウイルス感染症対策事業		千円	0	824	5,513	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

自主事業については、コンサートや作品展示など、８事業を予定していたが、そのすべてが中止せざるを得ない状況となり、大幅な入場者減につながった。市民の文化・芸術活動の維持・発展のためには、新たな視点での取組が必要であるものの、貸館事業においては、コロナ禍の中にあって的確な施設管理を行い、文化ホール利用者の安全・安心を確保することができた。また、無観客でのイベント開催・オンライン配信に協力するなど、貸館利用者の希望に柔軟に応じたことで今後の文化ホールにおける文化芸術活動の新たな視点を模索する上で、スタートに立ったものといえる。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍のため中止になった事業があったが、可能な限り文化ホール、図書館を開館し、オンライン講座を開催するなどして、参加希望者に柔軟に応じている。

オンライン講座等、無観客でのイベントは今後、実施回数が増えてくると思うので、視聴者がどれぐらいいるのかを把握し、参加人数実績としてデータを取るとよいのではないか。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、安全・安心な貸館事業を行う一方、感染状況、国・府・他市町村の対応状況を適切に見極めて、利用制限等の緩和等を判断していきたい。

自主事業については、コロナ禍で大規模イベントの企画が難しい中、図書館や地域の人材とも連携・協力して、中庭をはじめ展示室や図書館まで会場を広げ、密にならない工夫をした上で、いくつかのブースを出して楽しんでいただけるような屋内・屋外イベントの開催を検討したい。

また、今まで文化ホールをご利用いただいた団体や個人と一緒に作りあげる合同の発表会である「（仮）文化感謝祭」などの開催も検討したい。

建物や舞台設備については、経年劣化により著しく老朽化しており、計画的な修繕予算の確保が必要であるが、特に舞台設備については、細心の注意をはらって維持管理を行い、文化ホールの運営に支障がでないようにしていきたい。

点検・評価の重点項目評価調書 15

担当課 （ 文 化 振 興 課 図 書 館 ）

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	②	社会教育の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

・地域情報拠点としての図書館の充実
　地域の情報拠点として、市民の知る自由、学習する権利、読書の楽しみを保障するため、図書・視聴覚資料・雑誌・新聞・郷土資料・行政資料・多言語資料・バリアフリー資料等の幅広い図書館資料の収集と、求められる資料や情報の提供を行う。
　予約・リクエストサービス、調査相談、読書相談、自動車図書館の運営、学校・園等との団体連携を行う。
　令和元年６月から、岸和田市以南の泉南地域５市３町の図書館（室）における、広域利用の充実する。

その他基本方針･施策項目・具体的施策
（基本方針5　生涯学習の推進　施策項目②　社会教育の充実　【具体的施策】　生涯学習活動の促進）

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　ガイドラインに基づく、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じるとともに、学校等への団体貸出の充実、自動車図書館の柔軟な運営、インターネット予約の導入等、新しい生活様式に即した非来館型の図書館サービスを実践していく必要がある。

　社会情勢が目まぐるしく変化する中、市民ニーズの多様化・高度化に対応できる蔵書の充実。

　貸出だけでなく、市民の憩いの場所、居場所としての機能の充実。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

　図書館において、新型コロナウイルス感染拡大防止のための検温機器、アルコール等の設置・図書や備品の消毒・貸出冊数や期間の拡大、カウンターの透明フィルム設置と足元マーク貼付等、利用者が安全安心に利用できるよう適切な管理を行った。また、新聞閲覧用机、インターネット閲覧机、自習室、市民ボランティア活動スペース等も、感染拡大防止対策を行いながら、開館時間は利用できるように努めた。

　緊急事態宣言に基づく臨時閉館中においても、図書館入口に臨時窓口を設置し、また、自動車図書館かしのき号の各ステーションには公用車による代替巡回を行い、予約やリクエスト資料の貸出を行い、地域の情報拠点としての機能を維持した。

　令和２年12月から、インターネット予約、新着資料案内メールサービス、ご自身での延長、順番予約など、図書館ウェブサイトにおけるインターネット上のサービスの充実を図り、利便性が向上した。
（資料15-3、15-4参照）

　地方創生推進交付金を活用し、青少年のためのフリースペースとして、進路や学校、身体など様々な悩みや疑問の解決し、生き方を考える上で役立つ図書や新聞、視聴覚資料をそろえた「お悩み解決！Teen'sコーナー」を11月に設置。ひとりでも仲間と一緒でも、読書が目的であってもなくても気軽に立ち寄れる居場所となることを目指し整備を行った。また、子どもを見守り、話を聞き、必要に応じて専門機関や行政のサービスにつなげる「きらめきサポーター」の養成講座を実施し、１月から活動（毎週土曜日：午前10～12時、午後１時～４時）を開始した（サポーター数：19人、サポーターによる相談事業は、緊急事態宣言等に基づき一部休止期間あり）。
（資料15-1、15-2参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標②	図書館数		館	1	1		
対象指標③	自動車図書館数		台	1	1		
活動指標①	開館日数		日	291	257		
活動指標②	自動車図書館巡回数		回	329	244		
活動指標③	図書館登録者数		人	60,283	60,895		
成果指標①	来館者数		人	113,840	76,696		
成果指標②	貸出人数		人	69,812	45,179		
成果指標③	貸出冊数		冊	366,101	271,239		
事務事業費①	図書館運営事業		千円	32,212	18,529	18,843	
事務事業費②	新型コロナウイルス感染症対策事業		千円	0	1,050	2,626	
事務事業費③	地方創生共生のまちづくり推進事業		千円	0	1,445	703	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

コロナ禍の中にあって的確な施設管理により図書館利用者の安全・安心を確保することができた。

かねてから市民から要望の多かったインターネット予約サービスの導入、図書館ウェブサイトのリニューアルを行い、利便性が格段に向上した。

関係各課と連携して、「お悩み解決！Teen'sコーナー」の設置と子どもの話を聞く、きらめきサポーターを配置することができた。今後は、青少年の居場所機能の充実を図るとともに、青少年に必要な情報が届くよう、様々な媒体を通してPRしていく必要がある。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

新型コロナウイルス感染症の影響で来館者数は減っているが、図書館を利用したいという思いからか、新規の利用登録者数は増加している。

貸出冊数については、来館者数の減少率ほど減っていないので、これは広報活動の成果だと思う。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、安全・安心な図書館運営を行う一方、感染拡大状況、国・府・他市町村の対応状況を適切に見極めて、各種行事や講座、ボランティア活動等を順次再開できるよう検討していきたい。

令和２年度に引き続き、図書館に行かなくても、身近に本がある取組として、学校や園、高齢者施設等に対して、図書館で選んだセット本の貸出を積極的に行っていきたい。

令和２年度に設置した10代の子どもたちのフリースペースである「お悩み解決！Teen'sコーナー」については、対象年齢の子どもたちに、コーナーやきらめきサポーターの情報が届くよう、様々な方法で積極的にＰＲしていきたい。図書館や本に馴染みがない子どもたちも、関心を持ち、来館のきっかけになるよう、10代の子どもを対象とした企画や作品展示等、一緒にコーナーを育てていけるような取組を考えたい。また、オンラインでの作品展示なども検討していきたい。

また、ハード面においては、コロナ禍でも、利用者の方々に安心して御利用いただけるような取組を順次行いたい。

点検・評価の重点項目評価調書 16

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課　（ 文 化 振 興 課 公 民 館 ）

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	②	社会教育の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

・地域情報拠点としての公民館の充実
　新家・信達・西信達・樽井の４公民館を開館し、利用者が安全で安心して利用できるよう適切に館を管理運営すると同時に公民館クラブ活動等及び地域住民の交流の場等として貸館業務を行う。
　市民による自主的な生涯学習活動、発表の場を提供することで自発的な文化、芸術活動を支援し促進する。
　公民館クラブ員の募集や公民館クラブ連絡協議会等の運営サポートや公民館クラブ協議会等が開催する公民館まつり等に対しての協力を行う。
　市民の教養や文化向上のため、館自主的講座等を開催する。

その他基本方針･施策項目・具体的施策
（基本方針5　生涯学習の推進　施策項目②　社会教育の充実　【具体的施策】　市民の芸術活動・生涯学習活動の促進）

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　コロナ禍にあって、これまで利用していた方々が継続して利用できるようガイドラインに沿った施設利用方法の周知、安全安心な講座等の開催方法の検討。
　大人だけでなく子どもたちも活用してもらえるような工夫が必要である。
　老朽化した施設をいかに維持して、限られた予算の中で優先順位をつけて修繕を行っていくか。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

　新型コロナウイルス感染拡大防止のための検温機器、アルコール等の設置・消毒・各部屋の定員見直しなど利用者が安全で安心して施設を利用できるよう適切な貸館業務等の管理を行った。また、コロナ禍の中、活動が制限・制約された公民館クラブ連絡協議会等のサポートを積極的に行った。

　新家公民館のエアコンを更新し、部屋の換気等をスムーズに行えるようにし、利用者の安全安心を確保した。

　コロナ禍の中で人を集めて行う方式の講座から開催方法を変更し、展示を中心に、作品の募集等行うことで参加者を募り、講座内容を冊子、ポスター、ウェブサイトなどで公開し、人を集めない方法で公民館講座を実施した。
・東日本大震災10年　防災復興資料展（復興庁のサイト、読売新聞に掲載される）**（資料16-1～3参照）**
・防疫妖怪「アマビエ」作品募集と展示会**（資料16-4、16-5参照）**
・公開ガーデニング講座「アボカドを種から育てよう」**（資料16-6参照）**
・公民館作品展（手編みクラブ作品展示、泉南写真クラブ作品展示等）

　キッズコーナー、自習室の設置（緊急事態宣言発令により閉鎖）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度の3月31日現在の数値	人数	61,457	60,795		
対象指標②	公民館数		館	4	4		
対象指標③							
活動指標①	開館日数		日数	285	250		
活動指標②	登録クラブ数		団体	119	106		
活動指標③	講座開催回数		回	116	4		
成果指標①	公民館利用者		人	50,209	24,643		
成果指標②	講座参加者		人	3,015	400		
成果指標③							
事務事業費①	公民館運営事業		千円	15,370	11,514	14,342	
事務事業費②	講座開催事業		千円	125	0	180	
事務事業費③	新型コロナウイルス感染症対策事業		千円	0	3,305	0	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

コロナ禍の中にあって的確な施設管理により、公民館利用者の安全安心と利便性を確保することができた。

公民館利用者や地域住民との交流により一定の生涯学習活動の進展と地域コミュニティの育成が行われた。

多くの人が講座受講の機会を提供し、市民の知に対する欲求を満たし学習への向上心を高めることができた。

泉南市の文化・芸術活動の発展が図られ、市民の文化活動、人の交流を一定担保することができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

通常の講座開催回数は減っているが、感染症対策を講じながら一定の交流が行われた実績は評価する。また、代替の手法として、新たに作品や冊子をウェブサイト上で公開を行ったことで、できる限りの市民の文化活動を支援・促進したことを評価する。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、安心・安全な貸館事業を行う一方、感染拡大状況、国・府・他市町村の対応状況を適切に見極めて、利用制限等の緩和等を判断していきたい。

令和２年度同様、展示や作品募集を行うことで参加者を募り、人を集めなくても講座に参加できるようさらに内容を充実させていきたい。またテーマについては地元や普段の生活に密着したものを基本とし、普段なにげなく接しているものがいかに素晴らしいものであるという「気づき」のきっかけとなるようなものとし、生涯学習からのまちづくりに活かしたい。

さらに、これらの展示を泉南市ウェブサイト上に同様の内容で公開し、オンライン展示会を開催することで公民館に足を運んでいただかなくても楽しめる展示会を行っていきたい。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため自粛せざるを得ない公民館まつりをウェブサイト上で開催することで、公民館に所属するクラブ活動の集大成となる発表の場を確保したい。

各公民館施設については、経年劣化により著しく老朽化している。利用者の方々に安心して、御利用いただけるよう、また災害時の避難所という観点からも緊急性の高いものから順次行っていきたい。

点検・評価の重点項目評価調書 17

担当課 （ 文 化 振 興 課 図 書 館 ）

1. 基本的事項 【ＰＬＡＮ】

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	②	社会教育の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

・読書活動の推進
「第２次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもや子どもに関わる大人を対象に、学校園、関係機関等と連携して、子どもの自主的な読書活動を推進する環境整備を行う。

あらゆる年代に読書活動が推進するよう、行事や講座、特集展示等の取組を行う。

その他基本方針･施策項目・具体的施策
（基本方針5　生涯学習の推進　施策項目②　社会教育の充実　【具体的施策】　生涯学習活動の促進・地域の情報拠点としての図書館の充実）

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

本の修理や展示企画、おはなし会の開催など、図書館は様々な分野で市民ボランティアの力に支えられているが、高齢の方も多いため、コロナ禍においては、その活動をかなり縮小せざるを得ない状況が続いている。方法を変えるなどし、市民の御意見や創意工夫を図書館の運営に活かす仕組みが必要である。

2. 施策の現状把握 【ＤＯ】

（１）活動内容

コロナ禍にあって、図書館に来館しなくても、身近に図書館資料がある取組として、学校や幼稚園、こども園、高齢者施設等へのセット貸出（団体貸出）の実施、かしのきブック便（自動車図書館でのセット貸出）、自動車図書館の特別巡回を行った。**（資料17-1参照）**

読書に興味がない方にも本や読書に興味・関心を持ってもらえるよう、以下の行事や講座等を行った。
・定例行事：乳幼児向きおはなし会、えほんタイム、かみしばい会、おはなしひろば
・特別行事等：ブックサロン、リサイクル市、新春企画、図書館クイズ７（セブン）、ぬりえ配布
・市民協働事業：ジュニア司書クラブ、図書館応援団活動、きらめきサポーター、ブックスタート事業
・連携行事：出張おはなし会（子育て支援センター）、ほっとママサロン（保健センター）、せんなん伝市メール講座**（資料17-2～5参照）**

夏休み居場所事業として、青少年センター、生涯学習課と連携し、３つの社会教育施設を会場として、えほんのひろばなどの活動を行った。**（資料17-6参照）**

魅力ある読書との出会いをつくるため、多数の特集展示を行った。（特集展示　年間150回程度）

社会見学や調べ学習、団体来館の受入れを行い、公共図書館の役割・機能の説明や利用案内等を行った。

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在の数値	人	61,457	60,795		
対象指標②	児童数	18歳以下の子ども	人	10,637	10,274		
対象指標③							
活動指標①	開館日数		日	291	257		
活動指標②	図書館児童登録者数	18歳以下の子ども	人	5,394	5,530		
活動指標③							
成果指標①	貸出冊数		冊	366,101	271,239		
成果指標②	子どもの読書活動推進事業の参加者数		人	5,440	2,463		
成果指標③	予約・リクエスト受付件数		件	18,981	20,398		
事務事業費①	図書館運営事業		千円	32,213	18,530	18,843	
事務事業費②	子どもの居場所づくり事業		千円	300	300	300	
事務事業費③	地方創生共生のまちづくり推進事業		千円	0	1,445	703	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

特集展示を多数企画することで、新たな視点で楽しい読書との出会いを創出した。

コロナの影響による来館者数の減少はあるものの、予約・リクエストの受付件数が伸び、市民の図書館資料に対する要求に応え、市民の教養と文化の発展に寄与した。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍で、新たに図書館登録者数が増えている。予約、リクエスト受付件数が令和元年度より増加していることは評価できる。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、安心・安全な図書館運営を行う一方、感染拡大状況、国・府・他市町村の対応状況を適切に見極めて、各種行事や講座、ボランティア活動等を順次再開できるよう検討していきたい。

また、来館の際には、短い滞在時間で、幅広い視野で本選びができるよう、令和２年度に引き続き、特集展示の充実を図っていきたい。季節に即した楽しい特集展示や、社会的な関心事や話題性のあるテーマについての特集展示に加え、関係各課や団体等とも連携した特集展示など、市民ひとりひとりが「考えるきっかけ」となる特集展示にも力を入れて、市民の生涯学習や市民生活の向上、地域社会の発展に寄与できるよう、新たな本との出会いの場を今後も創出していきたい。また、図書館ウェブサイトでも、特集展示の内容がわかり、インターネット予約もできる、ウェブ版のブックリストのＰＲも積極的に進めていきたい。

点検・評価の重点項目評価調書 18

担当課　（生涯学習課青少年センター）

1.基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	③	青少年の健全育成の充実

（１）具体的施策（施策の概要）

・講座やイベントの実施
　青少年の健全育成のため、地域団体やボランティアと連携し、様々な体験活動ができるよう講座やイベントを実施する。
・子どもの自主的活動の推進
　泉南市子どもの権利条例に基づき、青少年センターの運営に子ども自身の意見表明ができるよう「みんな仲よし会議」を開催、また、子ども会議との連携を行うなど子どもの自主的活動を推進する。
・YouTube動画の配信
　コロナ禍で講座等が中止となる中で、自宅でも様々な体験ができるよう動画を制作し配信を行う。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　泉南市全体の子どもたちが利用できるような取組や、青少年センターのことを知ってもらえるような取組を検討

２.施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・講座やイベントの実施
　生け花体験、紙ひもで小物入れ作り、水遊びイベント、ハロウィンパーティー、サバイバルキャンプや市自然ふれあいディキャンプなどを実施した。

・子どもの自主的活動の推進
　みんな仲よし会議　7/25・9/19開催　17名参加
　せんなん子ども会議　８回開催　153名参加

・YouTube動画配信
　おうちでやってみよう簡単ものづくりシリーズ　計6本を配信

（資料18-1～7参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市内の小・中学生（児童・生徒数）	各年度５月１日現在	人	5,043	4,834		
対象指標②							
対象指標③							
活動指標①	講座等開催数		回	61	18		
活動指標②	YouTube配信本数		本		6		
活動指標③							
成果指標①	講座等参加者数		人	891	476		
成果指標②	YouTube視聴回数	6本の合計視聴回数	回		1,014		
成果指標③							
事務事業費①	講座講習等開催事業		千円	305	787	933	
事務事業費②	誘客連携による地域活性化事業		千円	0	203	500	
事務事業費③	新型コロナウイルス対策事業		千円	0	362	0	

３.評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
A	**A**：計画を大幅に上回っている **B**：概ね計画どおり **C**：計画をやや下回っている **D**：計画を大幅に下回っている

令和２年度については、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言等で講座・イベント等の中止が相次ぎ、計画通りの回数は実施できなかった。実施できた回も参加者数は少なめであったが、子どもたちの体験の場が少しでも損なわれないよう、可能な限り開催できる方法を検討し、内容を変更するなどして実施できた。

臨時休館中であっても、子どもたちに様々な体験してもらえるようYouTube動画制作を開始し、自宅でできる簡単なものづくり動画を配信することができた。また、国の新型コロナウイルス感染症対策費を獲得し、動画作成用のパソコンやビデオ、編集ソフトなどを購入し、配信環境を整えることができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
A	**A**：非常に良好 **B**：概ね良好 **C**：やや不十分 **D**：不十分

数々のイベントを中止せざるを得ない状況で、YouTubeの動画配信等、新たな事業に取り組んだことを高く評価する。YouTubeのアクセス数をイベント参加者数として捉えると、かなりいい実績であり、新たな形のイベント集客ができたといえる。

４.今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めながら、安全対策をとれる講座の内容を検討し、併せてYouTube動画やウェブサイトを活用するなど、令和２年度に取り組んだ新たな手法を積極的に活用して、どんな状況であっても子どもたちの体験活動の機会が失われないよう事業を実施する。

点検・評価の重点項目評価調書 19

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課　（生涯学習課青少年センター）

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	⑤	子どもの居場所づくりの推進

（１）具体的施策（施策の概要）

・子ども元気広場事業の実施
　放課後や土曜日の子どもの安心・安全な放課後の居場所づくりのため、市内小学校での遊び広場や青少年センター、市民交流センターでの子ども元気広場（児童館事業）を実施する。

・夏休みの子どもの居場所づくり事業の実施
　学校が長期休業となる夏休みの子どもの安全・安心の居場所を提供するため、日ごろ家庭では体験できないような講座等を実施する。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　泉南市全体の子どもたちが利用できるような取組や、青少年センターのことを知ってもらえるような取組を検討

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・子ども元気広場の実施
　市内小学校8校であそび広場を実施した。
　　実施回数　47回
　　参加者数　延べ2082人（2校については緊急事態宣言の為未実施）
　青少年センター・市民交流センターで子ども元気広場（児童館事業）を実施した。
　　実施回数　青少年センター　253回　市民交流センター　229回
　　参加延べ人数　青少年センター　2385人　市民交流センター　1366人
・夏休みの子どもの居場所づくり事業の実施
　　実施回数　6回　参加者数　延べ107人
・臨時的な子どもの居場所づくり事業の実施
　緊急事態宣言により臨時休校となったため、仕事等で保護者が自宅にいない児童に対して学校内の教室において、教員主体の居場所づくり事業を実施。
　参加人数の集計作業及び報告、人員不足の学校に対する職員派遣を青少年センターで実施。
　　実施場所　市内10小学校
　　実施回数　39回（4/8～6/5の平日）
　　参加延べ人数　6,067名
（資料18-1、19-1～4参照）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市内の小・中学生（児童・生徒数）	各年度５月１日現在	人	5,043	4,834		
対象指標②							
対象指標③							
活動指標①	子ども元気広場開催数		回	614	529		
活動指標②	夏休みの子どもの居場所づくり事業開催数		回	28	6		
活動指標③	臨時的な子どもの居場所づくり事業開催数		回	16	39		
成果指標①	子ども元気広場参加者数		人	7,400	5,833		
成果指標②	夏休み子どもの居場所づくり事業参加者数		人	1,049	107		
成果指標③	臨時的な子どもの居場所づくり事業参加者数		人	3,242	6,067		
事務事業費①	子ども元気広場事業		千円	1,195	768	1,153	
事務事業費②	子どもの居場所づくり事業		千円	1,128	974	389	
事務事業費③	新型コロナウイルス対策事業		千円	0	350	0	

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
Ｂ	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

令和２年度については、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言等で講座・イベント等の中止が相次ぎ、計画どおりの回数は実施できなかったが、コロナ禍でストレスを抱えている子どもたちの数少ない居場所として可能な限り開催できる方法を検討し、内容を変更するなどして実施できた。実施できた回も人数制限をかけるなど運営方法を変更したため、参加者数は少なめとなった。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
Ａ	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍において、学校が行っていた臨時子ども居場所づくり事業を、青少年センターが協力し、サポートや申込みの取りまとめ等の自主的な活動を行い、子どもの居場所づくりの確保に努力されたことを高く評価する。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、安全対策を取りつつ、子どもたちに対して継続的に安全で安心な居場所を提供できるよう、遊び等の内容を工夫する。

夏休みの居場所づくり事業については、日ごろ家庭で体験できない実験等の内容を選び貴重な体験となるよう工夫する。

点検・評価の重点項目評価調書 20

担当課（　生　涯　学　習　課　）

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	5	生涯学習の推進
施策項目	⑤	子どもの居場所づくりの推進

（１）具体的施策（施策の概要）

・留守家庭児童会運営
　保護者が就労等により、放課後や学校休業期間の日中養育者が家庭にいない児童に対して、市内９小学校内の10か所で留守家庭児童会を開設し、適切な遊びや生活の場を提供する。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　老朽化している施設もあり、適切な維持保全を行う必要がある。

　留守家庭児童会支援員のスキルアップのため、研修の充実が必要である。

　新型コロナウイルス感染防止のため、留守家庭児童会の衛生環境向上に努める必要がある。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

　学校稼業日は、14：00から19：00まで、土曜日及び学校長期休業期間中は、8：00から19：00まで留守家庭児童会を開所し、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、児童の適切な遊びや生活の場となるよう支援を行った。

１．留守家庭児童会運営事業

（１）留守家庭児童会の支援員等にスキルアップのため研修を実施した。**（資料20-1参照）**
①研修開催回数　14回
②参加者数（延べ）108名

（２）新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子ども・子育て支援金などを活用してマスク及びアルコール等の消耗品、空気清浄機及び手洗い用水栓の自動水栓化を行った。**（資料20-2参照）**
①マスク及びアルコール等消耗品購入額　1,207,978円
②空気清浄機購入額及び台数　　購入額　903,210円　　購入台数　23台
③手洗い用水栓自動水栓化費用及び設置数　設置費　619,960円　設置数　13か所

（３）新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子ども・子育て支援交付金などを活用して緊急事態宣言に伴う学校の臨時休校期間中に市からの要請等により利用自粛した利用者に対して、利用料の日割りでの返還を行った。
①返還額　3,136,413円
②返還人数（延べ）　1,150人

（４）施設の維持修繕を行った。**（資料20-3参照）**
①砂川留守家庭児童会の室内カーペットの全面張替え
②その他留守家庭児童会施設の維持修繕
修繕費計　938,266円

２．新型コロナウイルス感染症対策事業

（１）新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、留守家庭児童会で使用する非接触体温計を購入した。
①購入額　132,000円
②購入数　20本

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	1年生から６年生の児童数	各年度5月1日現在	人	3,302	3,184		
対象指標②	入会申込者数	―	件	462	424		
対象指標③							
活動指標①	開設日数	―	日	290	293		
活動指標②							
活動指標③							
成果指標①	入所率	対象指標②/対象指標①×100	%	13.99	13.31		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①	留守家庭児童会運営事業		千円	105,128	103,892	110,964	
事務事業費②	新型コロナウイルス感染症対策事業		千円	0	132	0	
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

適切な維持修繕を行うことで、安全・安心な保育環境を提供できた。

留守家庭児童会を開所し、留守家庭児童会支援員等が支援することで、利用児童の適切な遊びや生活の場を提供することができた。

留守家庭児童会支援員等に対して、研修を実施することで自身の業務を再確認するとともに、スキルアップにつながった。

アルコール等の消耗品、空気清浄機の購入及び手洗い用水栓の自動水栓化により留守家庭児童会内の衛生環境の向上に、また利用料を返還し利用自粛要請を行うことで、新型コロナウイルス感染拡大防止につながった。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
A	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍において、平時とほぼ変わらない実績で、留守家庭児童会の施設だけではなく、学校内のPCルーム、図書館等、他の施設を利用して実施するなど、職員は多大な努力をされている。計画どおりいかない中で、感染症対策を講じ、遂行できたことは高く評価する。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視ししつつ感染防止策を継続し、老朽化している施設の保全を行い、安全・安心な事業の実施に努める。

点検・評価の重点項目評価調書 21

担当課 （ 人 権 国 際 教 育 課 ）

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

基本方針	6	市を挙げての教育施策の推進体制の確立
施策項目	①	子どもの権利に関する条例の推進

（１）具体的施策（施策の概要）

子どもの権利に関する条例第８条「子どもの権利に関する学習と教育」の充実

子ども会議の運営支援とメンバーによる運営を可能とする仕組みづくり

泉南市子どもの権利に関する条例に基づき、条例の目的である「子どもにやさしいまち」の実現のための事業を推進する。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

子ども会議の小中学生の認知度は年々上昇している。会員数も増え、活動に幅を持たせることが可能となっている。一方で、子どもの活動を支える「大人スタッフ」が不足しており、恒常的にサポートできるスタッフを募集する必要がある。

子どもの権利条例委員会報告書の意見を受け、条例第６条「相談救済」について、その在り方について、泉南市独自の制度構築の検討を継続して進めていく必要がある。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・せんなん子ども会議の実施（毎月１回）　**（資料21－1、21－2参照）**
　　令和２年度はオンライン会議も含めて10回実施

・子どもの権利条例委員会からの報告書を受理

・「泉南市子どもの権利の日」（11月20日）における学校園の取組

・子どもの権利に関する保護者研修

・泉南市子ども安全大会（令和２年度は中止）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	市民	各年度3月31日現在	人	61,457	60,795		
対象指標②							
対象指標③							
活動指標①	せんなん子ども会議の実施回数		回	11	10		
活動指標②	子どもの権利に関する保護者向け研修会の実施回数		回	8	5		
活動指標③	子どもの権利条例委員会の開催回数		回	6	9		
成果指標①	せんなん子ども会議への参加経験者数		人	184	195		
成果指標②	子どもの権利に関する保護者向け研修会への参加者数		人	108	55		
成果指標③	子どもの権利について知っている児童生徒	（参考：平成25年度は29%）	%	－	40		
事務事業費①	子どもの権利に関する条例推進事業		千円	620	726	2,154	
事務事業費②							
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

学校園で「泉南子どもの権利の日」の取組を実施している。各学校での子どもの権利についての学習が年々広がってきている。

せんなん子ども会議が意見表明の場としての役割をしっかり果たしていることを第８次泉南市子どもの権利条例委員会報告でも評価していただいた。

コロナ禍のため、PTA研修等で子どもの権利に関する講座の回数は減ったものの、保護者が生活の中で子どもの権利について考える機会を作ることができた。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍においても、オンライン等で会議を開催するなど、おおむね計画どおりに進められており、子どもの参加者が増えていることは評価できる。

子どもが自主的に申し込み活動されており、良い事業であると評価できる。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

子どもたちの意見表明の場としての子ども会議を今後もしっかり実施していき、子どもたちが思っていることを表現し、活動していく場を保障する。

子どもの権利に関する条例についての周知、研修の機会を積極的にもつ。

点検・評価の重点項目評価調書 22

1. 基本的事項　【ＰＬＡＮ】

担当課（　指　導　課　）

基本方針	6	市を挙げての教育施策の推進体制の確立
施策項目	③	保護者の経済的負担の軽減

（１）具体的施策（施策の概要）

・就学援助制度の周知による制度の活用促進
・就学援助事業
　生活保護法による要保護者に準ずる程度と認められる方に制度を適用し、教育費について経済的に困難を感じている保護者に対し、学校で学習するために必要な費用の一部を援助する事業を実施。

（２）前年度までの主な課題　（評価委員からの指摘事項等）

　これからまだまだ所得格差が広がるという社会情勢の分析もある中、この先なかなか予測は難しいと思うが、就学援助費の増額、給食費の保護者負担の割合の見直しをする必要が出てくると思う。
　御家庭の経済状態が子どもたちの教育に影響することがないように、今後とも支援をお願いしたい。

2. 施策の現状把握　【ＤＯ】

（１）活動内容

・令和２年度小学校入学予定者に対する「小学校入学準備金」の支給について
　①就学援助制度の「小学校入学準備金」に係る周知（10月）
　　就学時検診時において、すべての保護者に就学援助制度のチラシを配布
　②申請手続き（12月～１月）
　③認定作業（２月）
　④支給（３月）

・令和２年度中学校入学予定者に対する「中学校入学準備金」の支給について
　①令和元年度の小学６年生の時点で、就学援助金の支給認定を受けている保護者に対して、自動的に中学校入学準備金の支給を実施
　②支給（３月）

（２）各種指標値、事業費の推移

	指標名	計算式	単位	R1実績	R2実績	R3予算	R4
対象指標①	泉南市立学校在籍児童生徒数	各年度5月1日現在	人	5,043	4,834		
対象指標②	泉南市内の満6歳～満14歳	各年度5月1日現在	人	5,088	4,935		
対象指標③							
活動指標①	認定者数		人	1,230	1,417		
活動指標②	支給額		千円	95,706	85,880		
活動指標③							
成果指標①	就学援助制度等利用率	（認定者数÷在籍児童生徒数）×100	%	24.4	29.3		
成果指標②							
成果指標③							
事務事業費①	小学校就学援助事業費		千円	62,344	57,692		
事務事業費②	中学校就学援助事業費		千円	33,362	28,188		
事務事業費③							

３．評価　【ＣＨＥＣＫ】

（１）自己評価と取組の主な成果

自己評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：計画を大幅に上回っている Ｂ：概ね計画どおり Ｃ：計画をやや下回っている Ｄ：計画を大幅に下回っている

令和２年度実績では、就学援助及び特別支援教育就学奨励基準に該当する児童生徒を合わせて算出したことにより、利用率は4.9ポイント増加している。
令和２年度においては、新型コロナウイルス感染症に係る市の取組により、学校給食費の無償化が行われたため、総支給額は減少した。
就学援助費については、現在、入学援助費・学用品費・校外活動費は実費（基準内）、修学旅行費は実費の８割、給食費は実費の７割を支給し、また医療費（法定疾病）は自己負担分を援助しているが、今後は保護者の更なる負担軽減のため、他市町並みに給食費の負担率を見直していく必要がある。
子どもたちの家庭をめぐる経済的な状況は依然厳しく、小中学校ともに本制度のニーズが高いことから、義務教育における保護者の経済的負担を軽減させる事業として、今後も一定のレベルで継続していく必要がある。

（２）泉南市教育委員会評価委員会の評価と主な意見

評価委員会評価（Ａ～Ｄ）	
B	Ａ：非常に良好 Ｂ：概ね良好 Ｃ：やや不十分 Ｄ：不十分

コロナ禍の影響も若干あるかもしれないが、利用率が上がっているということは、周知等もしっかりされており、適正に実施されていると評価する。家庭の経済状況による「子どもの貧困」から救済する制度として、今後も支給の向上に努めていただきたい。

４．今後の主な取組　【ＡＣＴＩＯＮ】

就学援助制度は、義務教育に係る保護者負担の軽減策として重要な施策と考えており、今後も本制度の充実に向けて引き続き取り組む。

泉南市教育委員会 令和２年度コロナウイルス感染症対策事業のまとめ

○全体的な感染拡大予防に関する取組

三密回避、うがい手洗いの徹底、消毒の徹底など、基本的事項は全ての施設、事業で実施している。

職員においても、可能な限り時差出勤対応するなどの取組も継続して行っている。

○学校休業期間の対応（子どもの居場所づくりに関する取組）

・臨時的な子どもの居場所づくり事業

令和２年度４月は、休業中の学校において教職員主体により居場所づくり事業を実施。４月８日から６月５日までの 39 日間、10 校で実施、延べ 6,067 名の児童に対応。

・夏休みの子どもの居場所づくり事業

令和２年度は夏休みの短縮のため、10 校での実施から青少年センター、埋蔵文化財センター、図書館の３館での実施に変更。

内容：むかし遊び、えほんのひろば、プラバンづくりとおもちゃ遊び

３日間、午前午後の計６回、延べ 107 名の児童に対応。

○学校における対応

・当初全校一斉の臨時休業としたが、分散登校を行うことで段階的に登校を再開した。

・三密回避の上、感染の恐れが高い活動を控える等、感染拡大予防について児童生徒に徹底指導した。

・学校の体育館などの広いスペースの換気を促進するため、14 校に各４台大型サーキュレーターを配備：5,029,000 円

（小学校 40 台 3,606,430 円、中学校 16 台　1,422,570 円）

・学校給食の配缶配膳時の衛生環境を向上させるため、エンボス手袋を配布：約 140 万円

GIGA スクール構想の推進に関連する事業

・全ての公立小中学校児童生徒にタブレット端末（iPad・LTE 回線付き）を貸与

導入学校数	小学校 10 校、中学校４校、総数 4,988 台（予備機含む）
導入開始時期	・令和２年11月１日から　学校予備機　154台 ・令和２年12月１日から　小６・中３用　1,132台 ・令和３年１月１日から　全学年用　3,702台
導入端末機器	iPad 第７世代　32GB（10.2 インチ）
通信機能	LTE（使用回線容量　５GB／月）、WiFi 接続も可。
学習支援ツール・ソフト	G Suite for Education、ミライシード（オクリンク）、ドリルコンテンツ「東書ライブラリ」
付属備品	キーボード（有線、小４～中３のみ）、保護ケース、保護フィルム

オフィス系ソフト	iWork 、Google オフィス系サービス（Microsoft　office は入らない）
その他	G suite の導入に伴い、全児童生徒にアカウントを設定配布
	無用なアプリケーションのインストールなどを制限する管理ツールを入れており、学習用のみとしての設定管理（MDM）
	コンテンツフィルタ導入済

・全ての小中学校で WiFi ネットワーク基盤を構築した。
・全ての小中学校の各学級（支援学級除く）に 65inch 大型モニタまたはプロジェクターを設置した。
・泉南市立学校園のすべての教職員の校務用 PC 端末配置に向けて令和２年度は、計 160 台を配置した。（参考：令和３年度に 245 台を配置し、全教職員への PC 配置が完了。）
・「泉南市学校情報セキュリティポリシー」並びに「泉南市学校情報セキュリティポリシー実施手順書（情報セキュリティハンドブック）」を策定。
・G Suite for Education（現 Google Workspace for Education）を活用するため、全ての児童生徒に G Suite(Google)アカウント ID を付与した。

○留守家庭児童会における取組

三密回避の上、感染の恐れが高い活動を控える等、感染拡大予防について児童に徹底指導した。

・感染拡大予防に資する機材類の調達・設置をした。
空気清浄機を 23 台設置　903,210 円
手洗い水栓 13 か所の自動水栓化　619,960 円
手洗い石鹸・アルコールディスペンサー計 28 台の設置　297,318 円
非接触体温計を 20 本購入　132,000 円
・感染者、濃厚接触者となった場合や利用自粛した保護者の利用料の減額
延べ 1,150 人　3,136,413 円

○保護者の生活支援に関する取組

・小中学校の保護者負担給食費を８か月間無償化
令和２年８月から令和３年３月までの８か月間、給食費（材料代）として
計１億 2800 万円
（小学校：3179 人分　82,713,662 円/中学校：2714 人　45,900,400 円）
・公立幼稚園に通う児童の保護者の負担軽減の取組
幼稚園児向け教材の負担を軽減した。計 200 万円

○公共施設における対応

（公民館）

・国・府の閉館要請に応じ、臨時的に休館する措置を取った。また、制限緩和後は、入場者を利用目的に合わせて定員の概ね 1/2～1/5 とすることで三密回避するなど、感染拡大予防措置を講じた上で利用を再開した。

・検温機器、アルコール等の設置・消毒・各部屋の定員見直しなど利用者が安心安全に施設を利用できるよう適切な貸館業務等の管理を行った。

・新家公民館のエアコンを更新し、部屋の換気等をスムーズに行えるようにし、利用者の安全安心を確保した。

・コロナ禍で人を集めて行う方式の講座から開催方法を変更し、展示を中心に、作品の募集等を行うことで参加者を募り、講座内容を冊子、ポスター、ウェブサイトなどで公開し、人を集めない方法で公民館講座を実施した。

・感染拡大防止のための備品を購入した。

アクセスコントロール機能付サーマルカメラ及びスタンド４館分

243,034 円×４台＝972,136 円

新家公民館エアコン更新　2,332,990 円

（図書館・文化ホール）

・国・府の閉館要請に応じ、臨時的に休館する措置を取った。また、制限緩和後は、入場者を一定数制限することで三密回避するなど、感染拡大予防措置を講じた上で利用を再開した。

・検温機器、アルコール等の設置・図書や備品の消毒・貸出冊数や期間の拡大、カウンターの透明フィルム設置と足元マーク貼付等、利用者が安全安心に利用できるよう適切な管理を行った。また、新聞閲覧用机、インターネット閲覧机、自習室、市民ボランティア活動スペース等も、感染拡大防止対策を行いながら、開館時間は利用できるように努めた。

・緊急事態宣言に基づく臨時閉館中においても、図書館入口に臨時窓口を設置。また、自動車図書館かしのき号の各ステーションには公用車による代替巡回を行い、予約やリクエスト資料の貸出を行い、地域の情報拠点としての機能を維持した。

・感染拡大防止のための消耗品を購入した。

アルコール消毒に関するもの・飛沫拡散防止のためのパーテーション等

334,600 円

・感染拡大防止のための備品を購入した。

機械器具費　715,484 円　モニター付きサーマルカメラ２台

・文化ホール指定管理者に対して感染拡大防止に伴う支援を行った。

補償、補填及び賠償金　824,000 円

（埋蔵文化財センター、史跡海会寺跡広場）

・国・府の閉館要請に応じ、臨時的に休館する措置を取った。また、制限緩和後は、入場者を施設定員の概ね 50%を目途とすることで三密回避するなど、感染拡大予防措置を講じた上で利用を再開した。

・団体見学や体験学習、講座や、学校園などへのアウトリーチなど、多様な利用形態での事業を実施しているため、国の要請により策定された業種別ガイドラインをもとに、施設独自の感染症拡大防止対策を策定した上で事業を実施した。

（青少年の森）
・国・府の閉館要請に応じ、臨時的に休館する措置を取った。
・感染拡大防止のため、アルコール等を設置した。

（青少年センター）
・健康チェックシステムの実施（消毒・検温・体調聞き取り、マスク着用、ハンカチ・水筒の持参確認、来館・退館時間等の確認をチェックシートで実施）
・制限緩和時は、ステージに合わせ、飲食禁止や１日を３つの時間に分けて来館してもらう３部制などの実施を行い、三密を回避した。
・感染拡大予防に資する機材類を調達・設置した。
空気清浄機を５台設置　196,350 円
手洗い石鹸・アルコールディスペンサー、フェイスシールド等　154,120 円
YouTube 動画制作用ビデオカメラ、ノート PC 等　362,420 円
・泉南市教育委員会の YouTube ブランドチャンネル開設及び動画配信
緊急事態宣言に伴い外出自粛が続いているので、家にある材料を使って子どもたちが簡単に作れるものを動画で紹介するおうちでかんたんにできるものづくり動画を作成。
・工作キット作成
青少年センターが開館した時に、来館した子どもが少人数でも遊べる工作キット作成
プラバンキット、　割りばし鉄砲キット、ストロー浮き球キット、紙粘土キット、ぺったんダーツキット、くるくるたこさんキット　など

（スポーツ施設）
・皮膚赤外線体温計の配備（６台）　39,600 円
・モニター付きサーマルカメラを市民体育館に設置　715,484 円
・感染症対策を行いながら３施設の運営を実施した指定管理者への支援金
1,215,000 円

Ｖ．泉南市教育委員会評価委員会による意見

令和２年度における泉南市教育委員会事務等の点検・評価について（意見書）

令和３年10月19日　泉南市教育委員会評価委員会

泉南市教育委員会評価委員会は、泉南市教育委員会が法令に基づいて毎年自らを点検・評価するに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するために設置した第三者委員会である。

私たち評価委員会は、令和２年度の点検・評価についてその任を果たすため、泉南市教育委員会が令和２年度に実施した事業及び施策の中から、点検・評価すべき重点項目として抽出した22事業についての評価調書を精査した。

そして、それを基に内容や実施状況について説明を受け、質疑応答を経て理解を深めることに努め、各項目について点検・評価を行った。

この意見書は、令和2年度における泉南市教育委員会事務等について、（１）～（６）の教育振興基本計画の各基本方針、及び（７）総評という構成で点検・評価し、意見を取りまとめたものである。

なお、各評価調書にも評価や意見を記入している。

（１）就学前保育教育の充実（調書１～２）

園内研修、２年目研修等の提案保育の中で具体的な指導が行われており、研修や個別指導により、教職員の資質向上に努められ、公立幼稚園の教育水準を確保されていることは評価できる。

感染症対策を行いつつ各幼稚園で「ひろば」、「園庭開放」等のイベントを自粛することなく実施できている。「コロナ禍においても、子どもの学びを止めない」という姿勢が、10周年イベントのバルーンリリースイベントにも強く表れている。幼稚園の先生方の努力により、各事業に積極的に取り組まれたことを評価する。

幼稚園施設については、保育教育環境を適正に保全されていると認められる。予算確保をしっかり行い、継続して保育教育環境の維持に努めていただきたい。

（２）小・中学校の教育力の充実（調書３～７）

多くの自治体がGIGAスクール構想での環境整備に苦労していた状況の中、非常にスムーズな実施体制を取り、他の地域に先んじて環境整備を進めており、また、その整備された環境を活用できるために、対面やオンラインによる多くの研修も実施されるなど、積極的に取り組まれていることを高く評価する。

今後は、現場の教職員が整備されたICT環境を使いこなし、授業等で活用できるように、研修、指導等のサポートを行い、指導力の向上に努めていただきたい。

いじめや不登校等への対応については、課題解決に向けた努力が行われているが、コロナ禍の中で、必ずしも十分に効果があがっているとは言い難い。時代は大きく変化しつつある中で、今後有効な施策を追加されることを検討されたい。

国際化教育の推進においては、外国人青年を招くJETプログラムを柱として、国際化に向けて素晴らしい活動に着手されており、子どもたちに国際化教育の扉が開かれた。今後の豊かな成果を期待したい。

食育の推進において、信達中学校等で実施された食育出前授業のような栄養教諭が配置されていない学校での取組を続け、市全体で食育を推進していただきたい。

小中一貫教育による学習の充実については、中学校区単位で積極的に取組が進められていると評価する。系統的なカリキュラムや生徒指導を進めることにより、学力や社会的資質の向上につながるよう、小・中学校の連携を更に進めていただきたい。

（３）明るく安心できる学習環境の整備、充実（調書８～９）

教職員の資質能力の向上において、GIGAスクールの研修に力を入れておられ、オンライン研修にもいち早く対応する等、ICT教育の資質向上に積極的に取り組まれたことは評価できる。今後も取組を続けられ、教育力の向上に努められたい。

「子どもの声制度」については、子どもの相談救済の仕組みの一つとして意義ある取組であり、工夫を重ね取組を続けていだたきたい。

（４）安全・安心な教育環境の整備（調書10～11）

トイレ改修等、教育環境の整備が推進されていることは評価する。施設の維持修繕については、安全対策、緊急保全を優先しつつ、各校の要望を実現するよう予算の確保をお願いしたい。

通学時の安全確保のため、泉南市通学路安全対策推進協議会を開催し、相互の情報共有や危険箇所の点検等を実施し改善を図っていることは評価できる。今後も積極的な実施に期待する。

（５）生涯学習の推進（調書12～20）

文化遺産の保護と活用において、コロナ禍でも実施可能な文化財の新たな活用方法を事業化し、歴史・文化に触れる機会や、歴史・文化を理解し、その重要性を認識する機会を提供したことは評価する。

幼少期から体を動かす楽しさを体験できるスポーツ・健康のまちづくり推進において、泉南市総合体育大会で新たに水泳競技を開催しており、感染症対策を講じて新たな取組をしたことを高く評価する。

市民の文化芸術活動の推進において、可能な限り文化ホールを開館し、無観客でのイベント開催、オンライン配信に協力するなど貸館希望者に柔軟に応じ、文化芸術活動の新たな視点を模索されていることは評価できる。

図書館、公民館において、感染症対策を講じつつ、可能な限り図書館、公民館を開館し、読書活動や情報収集活動、文化芸術活動や生涯学習活動を行う地域情報拠点としての事業実績は評価する。

青少年の健全育成の充実において、講座、イベントの中止により、子どもたちの体験の場が損なわれないように可能な限り実施されていることや動画配信により子どもたちが自宅でも様々な体験活動ができるよう、新たな取組を行ったことは高く評価できる。

子どもの居場所づくりの推進において、子ども元気広場事業や夏休みの子ども居場所づくり事業を可能な限り実施されており、コロナ禍において、学校が行っていた臨時子ども居場所づくり事業を、青少年センターが協力し、サポートや申込みの取りまとめ等の活動を行い、子どもの居場所づくりの確保に努力されたことを高く評価する。

留守家庭児童会においては、多大な努力をされ、感染症対策を講じて、平時とほぼ変わらず実施されたことは高く評価する。

（６）市を挙げての教育施策の推進体制の確立（調書21～22）

子どもの権利に関する条例の推進において、「せんなん子ども会議」がコロナ禍においても、オンライン等で会議を開催するなど、おおむね計画どおりに進められており、子どもの参加者が増えていることは評価できる。

保護者の経済的負担の軽減において、就学援助制度等の利用率が上がっているということは、制度の周知等がしっかりされており、適正に実施されているものと評価する。家庭の経済状況による「子どもの貧困」から救済する制度として、今後も支給の向上に努めていただきたい。

（７）総評

泉南市教育委員会では、教育振興基本計画の基本理念を実現するため、６つの基本方針を定め、それに沿って様々な具体的施策や事業が展開されている。そのうちの重点項目について、今回意見を述べさせていただいたが、コロナ禍の影響により、事業の縮小や中止せざるを得ない状況の中、様々な感染症対策を講じられ、代替事業を考えられるなど大変な苦労や努力されたことを、まずもって評価したい。

また、教育委員会の各施策に対する自己点検、効果や課題の整理、今後の方向性の検証が適切に行われていることは評価できる。

教育委員会の各課においては、併せて重点項目以外の取組についても自己点検を行い、取組の効果や今後の課題を検証することもお願いしたい。

教育委員会が所管する施策は、未来の泉南市を担う子どもを育てることに直結するので、市民（保護者）の教育に対する関心や要望、期待などが大きい。

財政状況が厳しい中で限られた予算を活用し、事業を精選し、喫緊の教育課題に取り組むなど一般的によく努力されているが、時代の変化に応じて更なる創意工夫をし、教育環境の整備を積極的に推進されることを願っている。

次年度以降も今年度の効果の高い事業や取組を継承するとともに、やり残した課題を改善し、新たな視点で施策を立案して泉南市の教育行政が充実・発展していくことを期待する。

Ⅵ. 泉南市教育委員会による令和２年度事業等の点検・評価（総括）

令和２年度の所管事務及び事業については、年度当初から年度末に至るまで、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校園が約３か月にわたり休業となるなど、全体として縮小や中止等をせざるを得ない状況となった。

そのような中、泉南市教育委員会では、子どもや関係者の安全・安心を図りながら、授業や代替事業等を実施したり、GIGAスクールの整備やSNSでの発信強化などICT力を高めたり、コロナ禍に対応した子ども居場所づくりの確保をしたりしながら、子どもたちや市民のための取組を進めることができたと自負している。

泉南市教育委員会評価委員会におかれては、点検・評価対象の22の施策について、お忙しい中、御精査いただいた。泉南市教育委員会としては、各点検・評価の御意見に対して、項目ごとに「今後の主な取組」を評価調書中に記載させていただいたところである。

評価委員会では、コロナ禍における私どもの取組を、全体を通じて良好と評価いただいており恐縮であるが、「やや不十分」とされた「小・中学校の教育力の充実」の事業や、「検討されたい」等の御意見のあったものについては、一つひとつ丁寧に検証し、改善、創意工夫等を行い、今後のさらなる成果や課題克服に生かしてまいりたい。

泉南市教育委員会では、今後も泉南市教育振興基本計画に掲げる「目指す子ども像」の「希望と力をもち たくましく生き抜く子ども」の育成と教育環境の充実、さらには市民ニーズに応える生涯学習、文化、スポーツ等の事業や環境整備等に取り組む決意である。

Ⅶ. 泉南市教育委員会評価委員会規則及び評価委員名簿

泉南市教育委員会評価委員会規則

（平成 24 年 12 月 25 日教育委員会規則第４号）

（趣旨）

第１条　この規則は、泉南市附属機関に関する条例（昭和 46 年泉南市条例第 11 号）第３条の規定に基づき、泉南市教育委員会評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営その他委員会について必要な事項を定めるものとする。

（所掌事務）

第２条　委員会は、泉南市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の求めに応じて、教育委員会が地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第１項の規定により、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たり、同条第２項の規定により意見を述べるものとする。

（組織）

第３条　委員会は、委員４人以内で組織する。

２　委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。

３　委員は、その委嘱に係る職務が終了したときは、解任されるものとする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

２　委員長は、会務を総理する。

３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において行う。

（委任）

第７条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

令和３年度泉南市教育委員会評価委員名簿

（五十音順）

委員氏名	所属等
岡本　晃	泉南市青少年指導員協議会副会長
豊田　充崇	和歌山大学教育学部教職大学院教授
藤田　英明	元小学校校長
松井　明子	泉南市ＰＴＡ協議会会長

上記は、点検・評価を担当する委員である。

令和3年度泉南市教育委員会

点検・評価報告書（令和2年度対象）

発行・編集　　泉 南 市 教 育 委 員 会

住　　所　　泉南市樽井一丁目１番１号